

環境に関する事業者アンケート調査のお願い

日頃、市政に深いご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

本市では、水と緑が織りなす恵まれた自然環境を次世代に引き継ぎ、持続可能な社会を構築するため、「白岡市環境基本条例」に基づく「第2次白岡市環境基本計画」を策定し、環境保全の取組を推進しています。現在は、脱炭素社会の実現に向けた機運の高まりやライフスタイルの変化に対応するため、計画の見直しの基礎調査等の準備作業を進めております。

環境基本計画は、市民・事業者・行政が協力し、協働によって、誰もが住みやすい快適な環境を築き上げるための、本市における環境行政の根幹となる計画となります。このため、策定・見直しに当たっては、皆様の貴重なご意見やご要望を計画に反映させていただきたいと考えております。

つきましては、本調査の趣旨をご理解の上、今回の事業者アンケート調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和6年8月 白岡市長 藤井 栄一郎

<本アンケートについて>

- ・このアンケートは、本市の「環境基本計画」に、事業者の皆さまのご意見を反映するために行うもので、他の目的に使用することは一切ありません。
- ・すべての調査は無記名で行います。事業者のお名前や情報が外部に公表されることはありません。

<アンケートのご記入に当たって>

- ・ご回答方法は、「①本アンケート用紙に直接ご記入」または、「②ウェブでのご入力」のどちらか一方をお選びください。

【①本アンケート用紙に直接ご記入いただく場合】

- ・アンケートにお答えいただき、**8月23日（金）**までに、ポストへ投函するか、市役所2階の環境課までお持ちください。

【②ウェブでのご入力いただく場合】

- ・右のQRコードから、**8月23日（金）**までに、回答してください。



■問合せ先

担当課 白岡市 生活経済部 環境課
電話番号 0480-92-1111（内線：284・285）

【参考】

第2次白岡市環境基本計画の概要

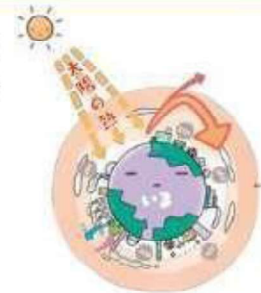
第2次白岡市環境基本計画では、望ましい環境像として、『**青空が広がる自然と豊かな心を育む “持続可能” なまち しらおか**』を定め、その達成に向け3つのプロジェクトを推進しています。



白岡市では、この望ましい環境像を目指し、「市・市民・事業者」の三者協働により、持続可能な環境づくりに取り組んでいます。

ゼロカーボン（脱炭素）とは？

近年、猛暑日の増加や、大型台風・ゲリラ豪雨の頻発などの気候変動が問題となっています。このような気候変動は、私たちが排出した二酸化炭素による地球温暖化が原因とされています。



地球温暖化のイメージ図
(環境省 こども環境白書を編集)

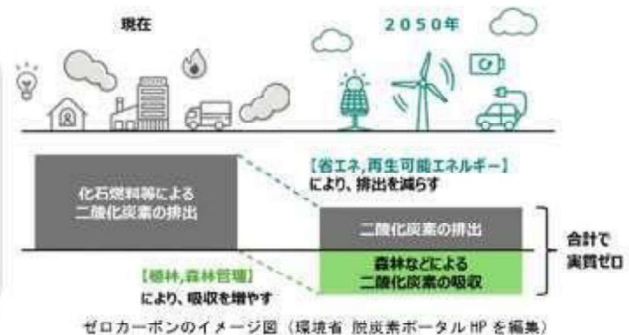
＜地球温暖化のメカニズム＞

- ① 太陽からの熱で地上が温まり、一部は宇宙に反射する
- ② 反射した熱を二酸化炭素などが吸収・再反射する（温室効果）
- ③ 二酸化炭素などが増えると、地球に跳ね返る熱が増え、気温が上がる

白岡市では、地球温暖化を抑制するために、令和5年6月に『**白岡市ゼロカーボンシティ宣言**』を行い、2050年までに温室効果ガスの排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を実現するための取組を推進しています。

＜ゼロカーボンシティとは＞

図のように二酸化炭素の排出量から吸収量を差し引いて合計が実質ゼロになった状態を**ゼロカーボン（脱炭素）**と呼びます。市の全域でこの状態を達成することを、『**ゼロカーボンシティ**』と呼びます。



温室効果ガスは、日常生活や経済活動に伴って排出されるため、ゼロカーボンの実現に向けては、**私たち一人ひとりの取組が大切です。**

1. はじめに貴事業所のことについてお伺いします。あてはまる番号を○で囲んでください。

業種（兼業の場合は、売上の最も多いもの）	1：農林水産業	2：鉱業	3：建設業	4：製造業	5：卸売業
	6：小売業	7：飲食業	8：金融・保険業、不動産業	9：運輸業	
	10：通信業	11：電気・ガス・水道・熱供給業	12：サービス業		
	13：その他（				
事業形態（複合の場合は、主たる事業形態）	1：工場	2：事業所（オフィス）	3：店舗		
	4：その他（				
貴事業所全体の従業員数	1：1～4人	2：5～9人	3：10～19人	4：20～29人	5：30～49人
	6：50～99人	7：100～199人	8：200～299人	9：300人～	

2. 貴事業所における環境問題への取組状況についてお伺いします。

問1：貴事業所から出る廃棄物の処理状況について、次の中から該当する番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

- | |
|-------------------------------|
| 1：ほとんどの廃棄物は、ごみとして処理している |
| 2：極力リサイクルに回し、廃棄物の量を減らす努力をしている |
| 3：その他（ |

問2：貴事業所から出る廃棄物のリサイクルの実施状況について、次の中から該当する番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

- | |
|------------------------------------|
| 1：市のごみ分別方法や法令にしたがって、分別またはリサイクルしている |
| 2：独自のリサイクルの体制を確立し、または既に実施している |
| 3：現在、独自のリサイクル方法を検討中である |
| 4：その他（ |

問3：問2に関連してお伺いします。リサイクルを実施する上での問題点について、次の中から該当する番号を全て選んで○で囲んでください。

- | |
|--------------------------|
| 1：費用がかかる |
| 2：手間や時間がかかる |
| 3：効率が上がらない、あるいは成果を期待できない |
| 4：社員の協力が得られない |
| 5：引き取ってくれる業者が確保できない |
| 6：実施方法がわからない |
| 7：当事業所には関係ない |
| 8：特に問題はない |
| 9：その他（ |

問4：貴事業所における省エネルギー化の進捗状況について、次の中から該当する番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

- 1：節電、節水など簡易に実行できるものはルール化し実施中
- 2：節電、節水など簡易に実行できるもののルール化について検討中
- 3：ISO14000 シリーズ等の環境マネジメントシステムを取得、環境報告書の公開等、事業所独自のルールや対策を実施中
- 4：ISO14000 シリーズ等の環境マネジメントシステムを取得、環境報告書の公開等、事業所独自のルールや対策について検討中
- 5：特に行っていない

問5：問4に関連してお伺いします。省エネルギー化を実施する上での問題点について、次の中から該当する番号を全て選んで○で囲んでください。

- 1：費用がかかる
- 2：手間や時間がかかる
- 3：効率が上がらない、あるいは成果を期待できない
- 4：社員の協力が得られない
- 5：実施方法がわからない
- 6：当事業所には関係しない
- 7：特に問題はない
- 8：その他（)

問6：貴事業所では、どのような環境保全対策を現在、実施していますか。次の中から該当する番号を全て選んで○で囲んでください。

- 1：排ガスや排水の処理施設の整備と管理体制の確立
- 2：排水の再利用システムなどの節水対策
- 3：低公害車の導入
- 4：事業所内の緑化
- 5：温室効果ガスの排出削減など、地球温暖化防止対策の推進
- 6：研修生の受入れや環境保全技術の提供など、開発途上国の公害防止への協力
- 7：環境基金への寄付など、環境保全活動に対する資金的な援助
- 8：地域の環境保全活動への企業としての参加、協力
- 9：不必要な照明を消したり、冷暖房などの省エネ運転などの推進
- 10：消費者等に対する、環境に関わる情報の提供
- 11：環境会計の導入
- 12：簡易包装や梱包材の再利用による包装材廃棄物の減量化
- 13：リサイクルを考慮した製品設計やリサイクルしやすい材料の使用
- 14：取扱い商品・容器等の消費者からの回収の実施
- 15：事業所で使用する用紙などの再生紙の使用
- 16：環境憲章や環境保全ガイドラインの遂行
- 17：社員の環境行動に対する顕彰制度の遂行
- 18：事業活動に伴う環境問題を専門的に担当する部門や組織の設置
- 19：ISO14000 シリーズ等の環境マネジメントシステムの取得
- 20：環境保全に関する従業員研修の実施
- 21：その他（)

4. 市民・事業者・市の連携による環境づくりへの参加についてお伺いします。

問 12: 市民・事業者の連携による自主的な環境づくり活動が実践された場合、どのような活動に参加したいと思いますか。次の中から該当する番号を全て選んで○で囲んでください。

1 : 自然観察会や環境学習会

2 : 環境保全団体等が主催する自然保護活動

3 : 田畑の管理・保全や農業体験

4 : 植樹やガーデニング等の地域の緑化活動

5 : 河川等の水辺周辺の保全やボランティア活動

6 : ごみゼロ・クリーン運動等の地域の清掃・美化活動

7 : 文化財保護活動や学習会

8 : 脱炭素社会構築のためのキャンペーンへの参加

9 : グリーンツーリズムなどのエコツアー

10 : 地域の防災活動

11 : その他 ()

12 : 参加したいとは思わない

問 14 へ進んでください

問 13 へ進んでください

問 13: 問 12 で「12. 参加したいとは思わない」と回答した事業所にお伺いします。それはどのような理由によるものですか。次の中から該当する番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

1 : 経営内容と無関係であるから

2 : 協力できる人員や資金が確保できないから

3 : 協力しても収益にはつながらないから

4 : 事業者よりも市や市民が解決すべき問題であるから

5 : その他 ()

問 14: 貴事業所を含め、「様々な市民や事業者が環境づくりに参加」するためには、市はどのようなことに重点的に取り組むべきだと思いますか。次の中からお考えに近い番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

1 : 事業者の環境への取組に関する情報公開

2 : 環境問題に関する講演会や学習講座の開催

3 : 各行政区や自治会等によるごみゼロ・クリーン運動などの清掃活動、美化活動の促進

4 : 環境活動のリーダーとなる人材の育成や協力

5 : 自主的に環境問題に取り組む組織や、サークル等への積極的支援

6 : 市民が集まったり、活動できる場の提供

7 : 環境問題を討議するため市民、事業者、市からなる活動組織の構築

8 : その他 ()

問 15: 「貴事業所で脱炭素化の取組を推進」する上で、市に対してどのような施策を期待していますか。あてはまる番号を3つまで選んで○で囲んでください。

1 : 脱炭素化の取組に関する情報提供

2 : 脱炭素化の取組に関する相談窓口の設置

3 : 再エネ（太陽光発電、バイオマス資源等）の導入に対する補助金制度等による支援

4 : 次世代自動車（ハイブリッド車、電気自動車等）の導入に対する補助金制度等による支援

5 : 地域活性化に繋がるエネルギーの地産地消に向けた仕組みづくり

6 : 官民が連携して取り組むための体制づくり（事業の安定化・市場拡大・地域貢献等の効果が期待）

7 : 脱炭素化に積極的に取り組む事業者に対する市独自の認定制度の創設

8 : その他 ()

問 19：「白岡市の環境基本計画の主な施策」について、市が重点的に取り組むべきだと思う番号を3つまで選んで○で囲んでください。

1：歴史に息づく緑の保全と創造	12：まちの安全対策の推進
2：生活とともに育まれた水路の保全と創造	13：ごみの不法投棄の防止
3：健全な生物多様性の保全	14：環境美化活動の推進
4：大気環境の保全	15：温暖化対策に向けた緩和策の推進
5：水質環境の保全	16：温暖化対策に向けた適応策の推進
6：騒音・振動の防止	17：3R（リユース、リデュース、リサイクル）の推進
7：総合的な公害の防止	18：安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進
8：すぐれた景観の確保	19：環境教育・学習の推進
9：快適でくつろげる空間の確保	20：環境保全のための意識啓発活動の推進
10：歴史・文化の保護	21：その他（
11：計画的なまちづくりの推進	）

6. 最後に、地球温暖化対策についてお伺いします。

問 20：貴事業所の省エネ機器や設備の導入状況について、次の中から該当する番号を全て選んで○で囲んでください。

1：コージェネレーションシステム（熱電併給システム）※ ¹
2：高性能ボイラーなどの高効率機器
3：空調・OA機器などの省エネ型業務用機器
4：省エネナビ※ ² ・スマートメーター※ ³
5：断熱材・ペアガラス※ ⁴
6：LED照明やHf型照明※ ⁵ などの高効率照明
7：屋上緑化・壁面緑化
8：その他（
）

- ※1：1つのエネルギー源から電気と熱などを同時に供給する、エネルギーの利用効率が高いシステム。例えばガスを燃料として発電し、排熱を回収して給湯に利用するシステムなどがある。
- ※2：現在のエネルギーの消費状況を量や金額で表示し、利用者自身が決めた目標値と比較しながら見せる機器。目標値を超えると警報ブザーなどで知らせてくれる。
- ※3：通信機能を備えた電力メーターで、家庭などと電力会社との間をつなぎ、電力使用量などのデータをやり取りしたり、家電製品などと接続してそれを自動でコントロールすることができる機器。
- ※4：ガラスを二重にしたガラス窓で、防音効果だけでなく断熱効果にも優れている。
- ※5：高周波点灯蛍光灯とも呼ばれ、電子安定器により電源高周波数を高周波に変換しランプを点灯させる事により、ランプ自体の性能アップが見込めるほか、省電力化などものぞむことができる新しい方式の蛍光灯。

問 21：貴事業所の再生可能エネルギー等の設備に関して、現在の導入状況や今後の導入予定について、該当する番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

設備	すでに導入済み	今後導入予定	予定はないが導入してみたい	導入するつもりなし
①太陽光発電	1	2	3	4
②蓄電池	1	2	3	4
③太陽熱温水器	1	2	3	4
④小型風力発電・風力発電	1	2	3	4
⑤バイオマス発電・熱利用（木質系・廃棄物系）	1	2	3	4

問 22：貴事業所の車両について、現在の所有状況に該当する番号を1つだけ選んで○で囲んでください。また、現在の所有台数と将来の予定台数がわかる方は、台数をご記入ください。（将来については、予定を含めた希望的観測でも構いません。わからない場合は空欄のまままでご提出ください。）

車両	所有している	所有していない	現在の保有台数 (2024年)	将来の予定台数 (2030年頃)
例) ガソリン・ディーゼル車(普通)	①	②	2台	1台
①ガソリン・ディーゼル車(普通)	①	②	__台	__台
②ガソリン・ディーゼル車(軽)	①	②	__台	__台
③ハイブリッド車	①	②	__台	__台
④PHV・EV(電気自動車)	①	②	__台	__台
⑤燃料電池自動車(FCV)	①	②	__台	__台

問 23：貴事業所で使用しているエネルギーについてお聞きします。エネルギーの使用状況について、該当する番号を1つだけ選んで○で囲んでください。また、直近の年間使用量(1月～12月)がわかればご記入ください。（直近の月明細からおおよその年間使用量を計算して記入いただいても構いません。わからない場合は空欄のまままでご提出ください。）

エネ種	使用状況		年間使用量 【1月～12月】
	使用している	使用していない	
例) 電気	①	②	約 10,000 kWh
①電気	①	②	約 _____ kWh
②都市ガス	①	②	約 _____ m ³
③プロパンガス	①	②	約 _____ m ³
④灯油	①	②	約 _____ ㍓
⑤ガソリン	①	②	約 _____ ㍓
⑥軽油	①	②	約 _____ ㍓
⑦重油	①	②	約 _____ ㍓
⑧木材(薪・ペレット)	①	②	約 _____ Kg

●最後に、白岡市の環境へのご要望や、貴事業所のお考えをご自由にお聞かせください。

該当する番号を選んで○で囲み、余白にご要望やお考えをご記入ください。

①：自然環境 ②：生活環境 ③：快適環境 ④：地球環境・脱炭素
 ⑤：人づくり(普及啓発等) ⑥：環境づくり活動 ⑦：補助金 ⑧：市の環境行政

これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

3-3 調査概要

■調査対象

・調査対象地域	白岡市全域
・調査対象	市内に事業所を構える企業・商店等
・サンプル数	150 票
・抽出方法	無作為抽出
・調査方法	郵送配送・郵送回収 + web アンケート方式
・調査期間	令和 6 年 7 月 31 日～8 月 23 日
・調査結果 (回収数)	55 票 (紙:50 + web:5) /150 票 【前回(R2) : 51 票/150 票】
・調査結果 (回収率)	36.6% 【前回(R2) : 34.0%】

■調査内容 (設問項目)

<p>(1) 属性 業種、事業形態、従業員数</p>
<p>(2) 事業所における環境問題への取組状況について 問 1 事業所から出る廃棄物の処理状況 問 2 事業所から出る廃棄物のリサイクル実施状況 問 3 リサイクルを実施する上での問題点 問 4 事業所における省エネルギー化の進捗状況 問 5 省エネルギー化を実施する上での問題点 問 6 現在、実施している環境保全対策 問 7 今後、実施を予定している環境保全対策 問 8 SDGs の認識</p>
<p>(3) 事業所の環境保全に対する考え方について 問 9 環境保全に対する企業の役割 問 10 事業所が環境保全対策を一層進めていくための課題 問 11 白岡市の環境を改善していくための今後の姿勢</p>
<p>(4) 環境づくりへの参加や役割について 問 12 参加してみたい自主的な環境づくり活動 問 13 市民・事業者の連携による自主的な環境づくりに参加したいと思わない理由 問 14 市民や事業者が白岡市の環境づくりに参加するために、市が重点的に取り組むべきこと 問 15 脱炭素化の取組を推進する上で、市に期待する施策 問 16 白岡市の環境を守り改善していくために望ましい役割分担</p>
<p>(5) 市の環境行政の在り方について 問 17 環境基本条例及び環境基本計画の認知度 問 18 環境基本計画の取組の効果 問 19 重点的に取り組むべき環境基本計画の施策</p>
<p>(6) 地球温暖化対策について 問 20 省エネ機器や設備の導入状況 問 21 再エネ設備の導入状況 問 22 次世代自動車 (ハイブリッド車、PHV・EV、FCV) への買い替えの意向 問 23 事業所の電気やガス等のエネルギー使用状況</p>
<p>(7) 自由記述</p>

3-4 集計結果

(1) 属性

■業種 【単独回答】

- ・ 回答事業者は建設業が 10 事業者と最も多く、サービス業が 9 事業者、製造業が 7 事業者となっている。
- ・ 鉱業、卸売業、通信業からは回答を得ることができなかった。

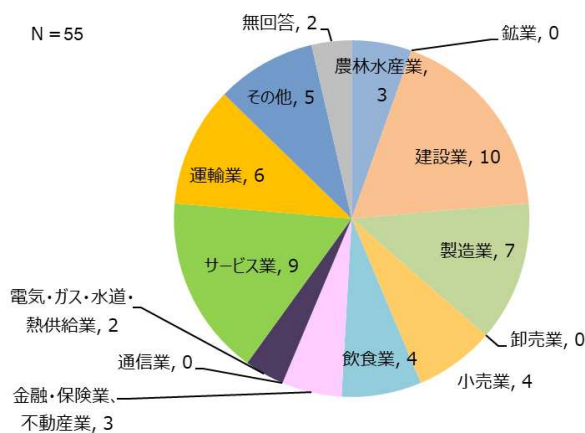


図 3-4-1 回答事業者の業種

■業種（統合）

各産業の特性や日本標準産業分類等を参照して、12 業種を以下の表のとおり 3 部門にまとめて集計した。以降、部門別のクロス集計を行う場合、この 3 部門でのクロス集計を行う。

表 3-4-1 地域区分

業種	部門分類方法
農林水産業、鉱業、建設業、製造業	産業部門に分類
卸売業、小売業、飲食業、金融・保険業、不動産業、電気・ガス・水道・熱供給業、サービス業	業務部門（民生業務）に分類
運輸業	運輸部門に分類
その他、無回答	コメント、業態、従業員数から、日本標準産業分類等を参照し上記 3 部門に分類 例) 医療→サービス業

- ・ 部門別では、業務部門が最も多く 27 事業者、次いで産業部門が 21 事業者、運輸部門が 6 事業者となっている。

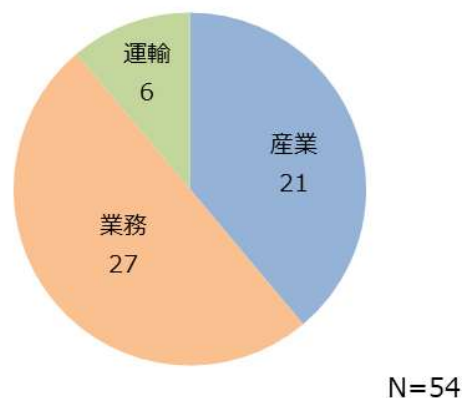


図 3-4-2 回答事業者の業種(部門別)

■事業形態【単独回答】

- ・業態別では、事務所が最も多く18事業者、次いで店舗が12事業者、工場が9事業者となっている。
- ・その他としては、自宅事業所や保育園、スポーツ施設が挙げられた。

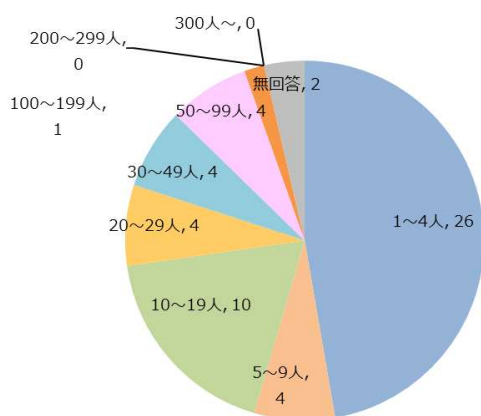


N = 55

図 3-4-3 回答事業者の業態

■従業員数【単独回答】

- ・従業員数では、5人未満の零細企業が26事業者と約50%を占めており、次いで10人以上20人未満が10事業者となっている。
- ・100人以上の事業者からは回答を得ることができなかった。



N = 55

図 3-4-4 回答事業者の業種(部門別)

（２）事業所における環境問題への取組状況について

問１ 事業所から出る廃棄物の処理状況【単独回答】

＜単純集計＞

61.8%の事業者が「極力リサイクルに回し、廃棄物の量を減らす努力をしている」と回答している。

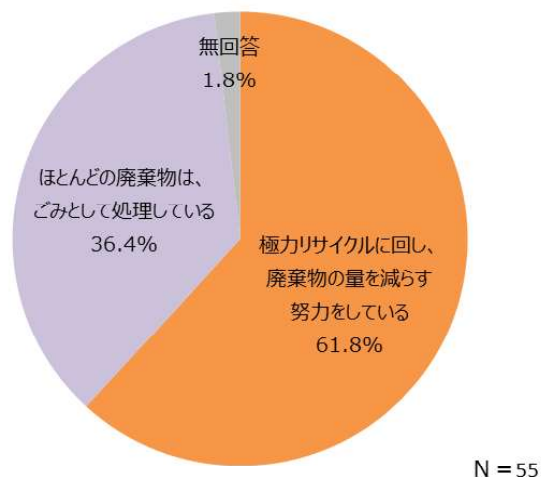
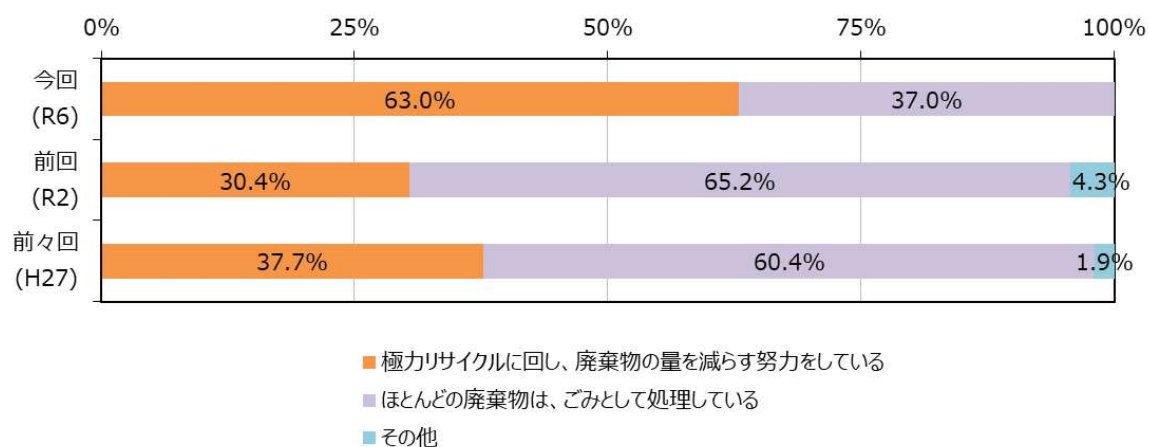


図 3-4-5 問１の単純集計結果

＜経年比較＞

前回、前々回と比較すると、「極力リサイクルに回し、廃棄物の量を減らす努力をしている」と回答した事業者が増加している。



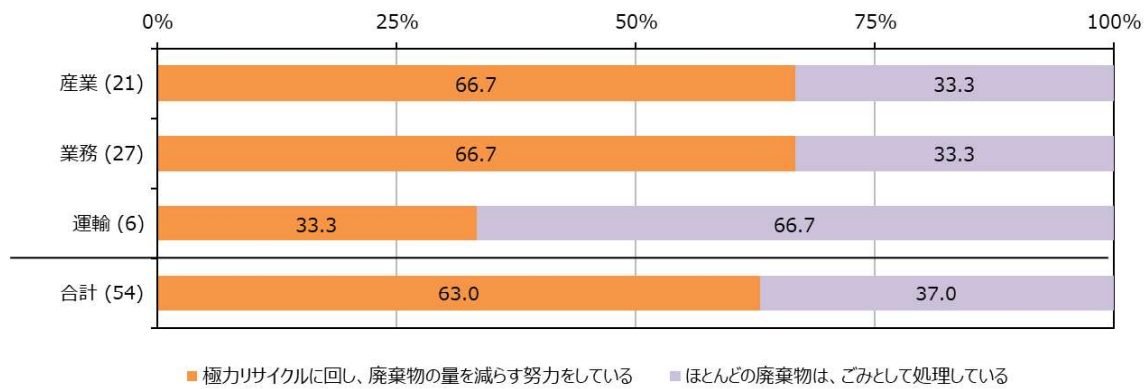
有効回答者数：今回54 前回46 前々回53

図 3-4-6 問１の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

部門別では、運輸部門において「極力リサイクルに回し、廃棄物の量を減らす努力をしている」と回答した割合が低い。



()内数値：有効回答者数

図 3-4-7 問1のクロス集計結果（部門別）

問2 事業所から出る廃棄物のリサイクル実施状況【単独回答】

<単純集計>

無回答の1事業者を除き、全ての事業者が何らかのリサイクル体制を構築している。

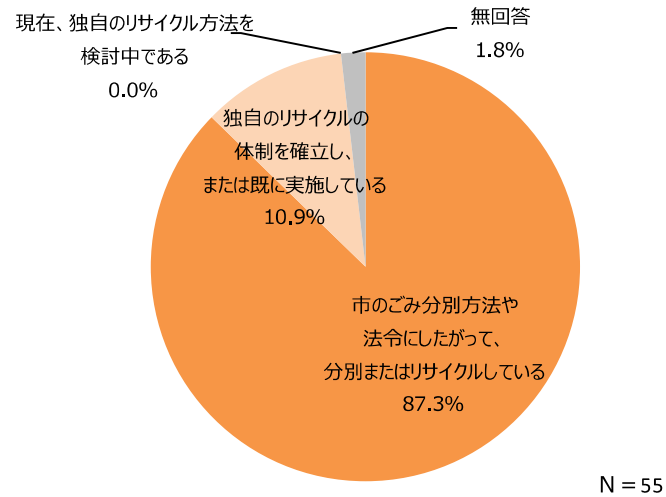
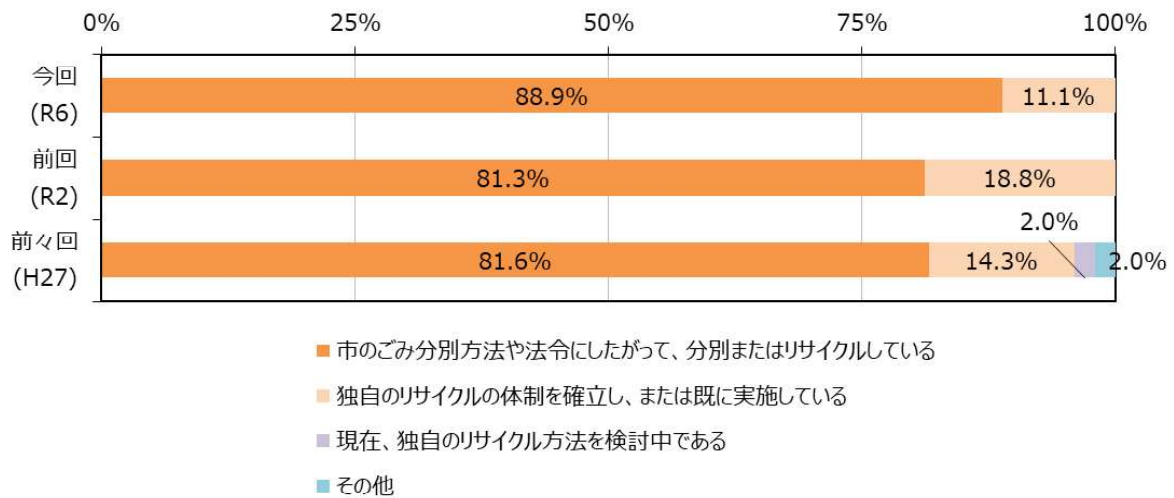


図 3-4-8 問2の単純集計結果

<経年比較>

前回と同様に、全ての事業者が何らかのリサイクル体制を構築している。



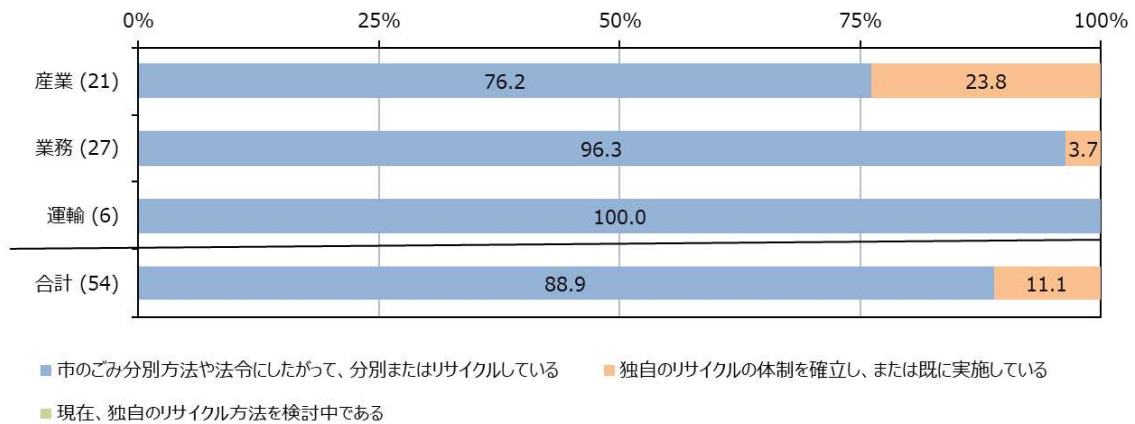
有効回答者数：今回54 前回48 前々回49

図 3-4-9 問2の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

産業部門では、「独自のリサイクルの体制を確立し、または既の実施している」と回答した事業者の割合が高い。



()内数値：有効回答者数

図 3-4-10 問 2 のクロス集計結果 (部門別)

問3 リサイクルを実施する上での問題点【複数回答】

<単純集計>

リサイクルを実施する上での問題点は、38.2%の事業者が「特に問題はない」と回答しているが、問題点としては「費用が掛かる」、「手間や時間がかかる」が多く挙げられている。

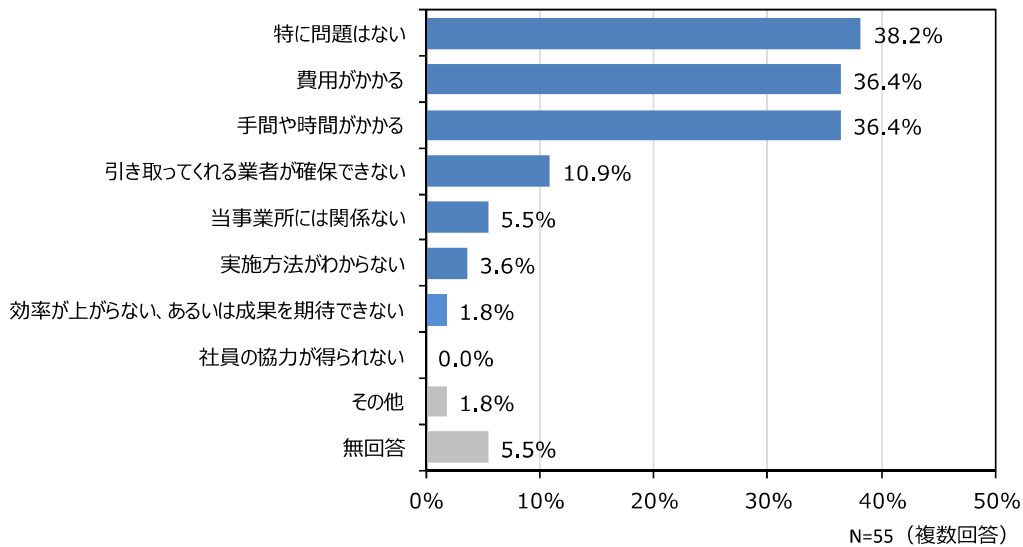


図 3-4-11 問3の単純集計結果

<経年比較>

前回から「特に問題はない」が減少し、「費用が掛かる」、「手間や時間がかかる」が増加した。

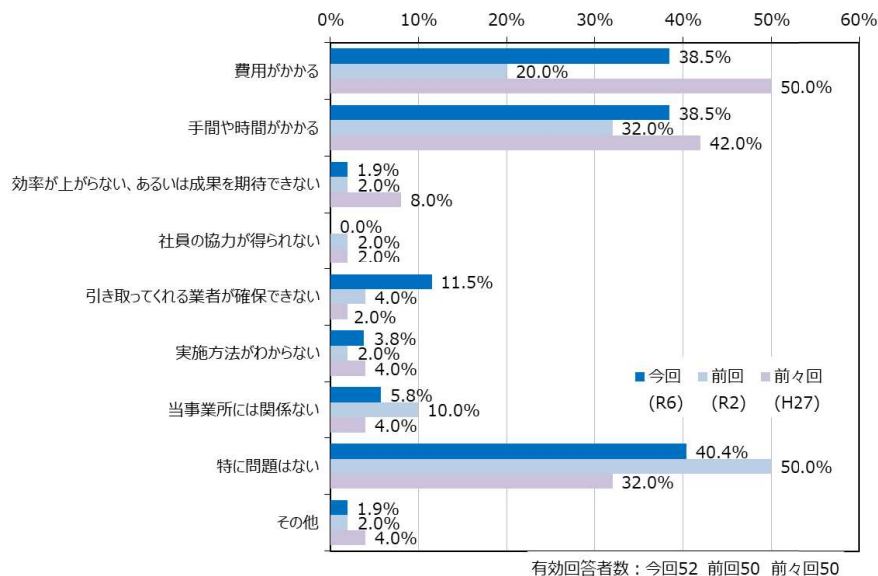
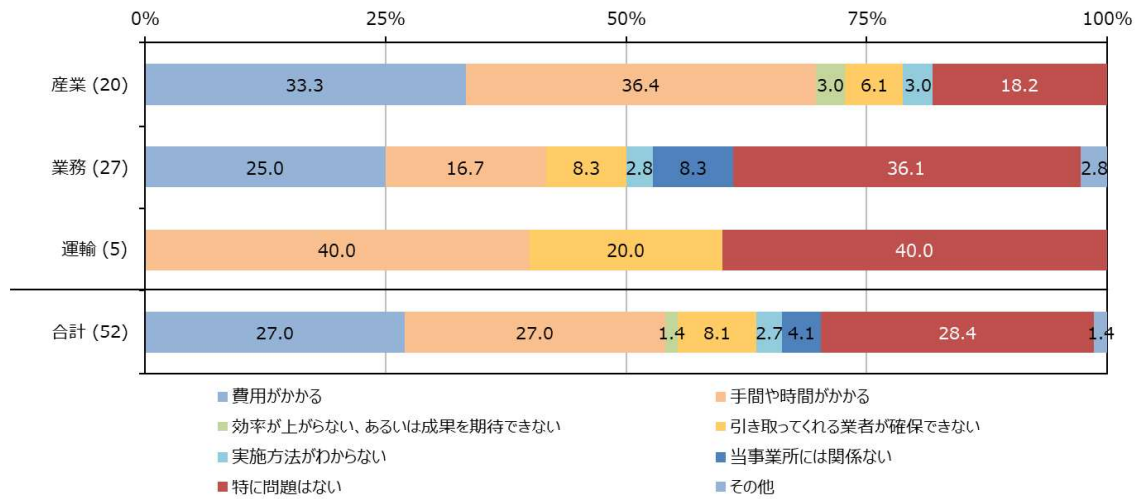


図 3-4-12 問3の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

産業部門では、「特に問題はない」と回答した事業者の割合が他の部門よりも低く、「費用が掛かる」、「手間や時間がかかる」と回答した事業者の割合が高い。



()内数値：有効回答者数（複数回答）

図 3-4-13 問3のクロス集計結果（部門別）

問 4 事業所における省エネルギー化の進捗状況【単独回答】

<単純集計>

9.1%の事業者が「ISO14000 シリーズ等の環境マネジメントシステムを取得、環境報告書の公開等、事業所独自のルールや対策を実施中」と回答している。また、45.5%の事業者が「節電や節水などをルール化し実施中」と回答している。

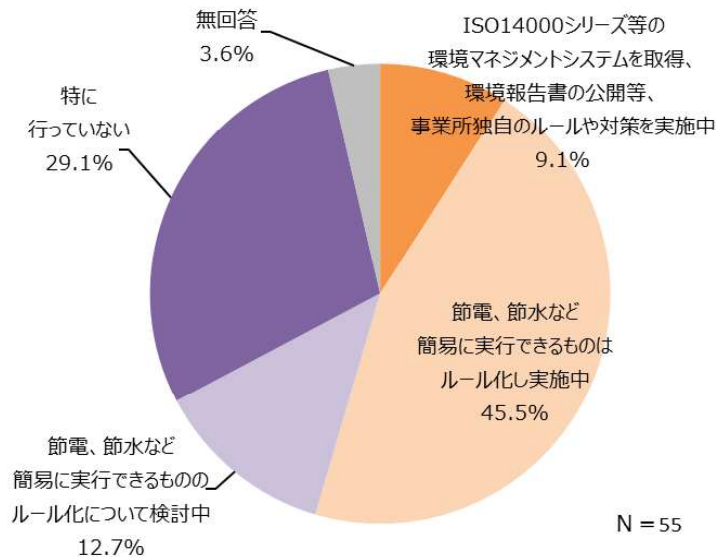


図 3-4-14 問 4 の単純集計結果

<経年比較>

前回から「ISO14000 シリーズ等の環境マネジメントシステムを取得、環境報告書の公開等、事業所独自のルールや対策を実施中」と回答した事業者が増加したが、事業者全体に占める割合は少ない。



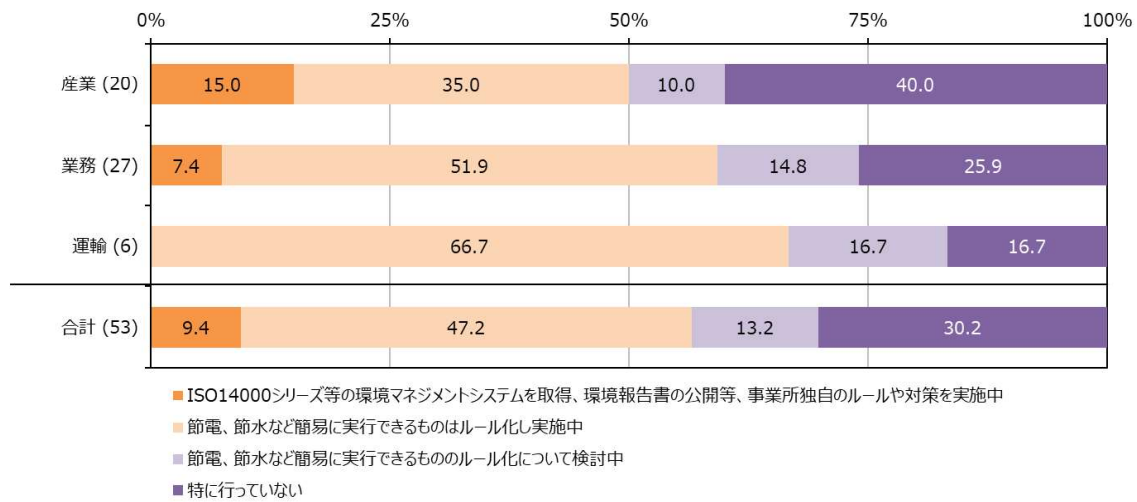
有効回答者数：今回53 前回51 前々回51

図 3-4-15 問 4 の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

産業部門では、「ISO14000 シリーズ等の環境マネジメントシステムを取得、環境報告書の公開等、事業所独自のルールや対策を実施中」と回答した事業者の割合が高いが、「特に行っていない」と回答した事業者の割合も高く、二極化が進んでいる。



()内数値：有効回答者数

図 3-4-16 問4のクロス集計結果（部門別）

問5 省エネルギー化を実施する上での問題点【複数回答】

<単純集計>

省エネルギーを実施する上での問題点は、38.2%の事業者が「特に問題はない」と回答しているが、「費用が掛かる」、「手間や時間がかかる」ことが問題点となっている。

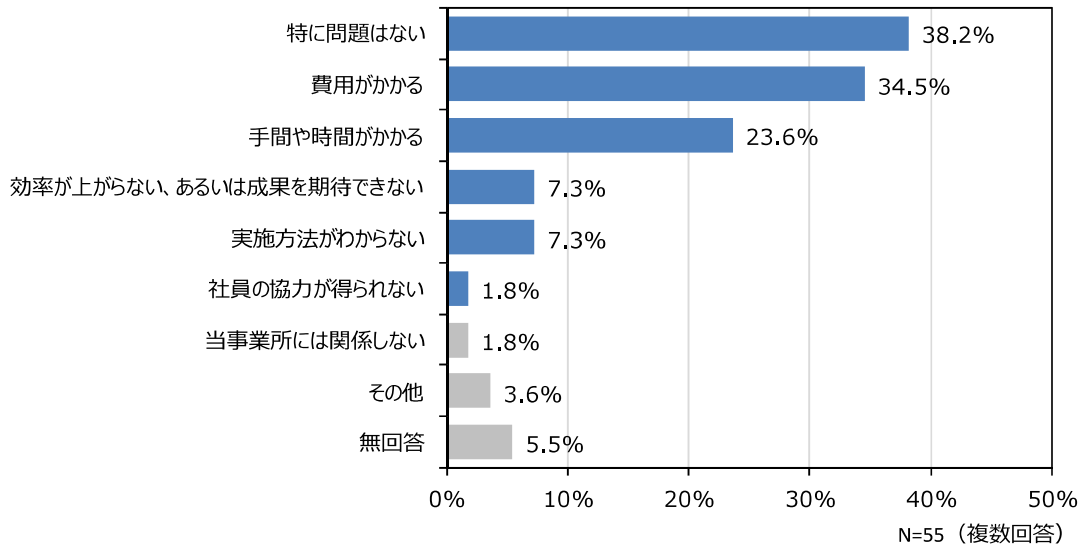


図 3-4-17 問5の単純集計結果

<経年比較>

前回から「特に問題はない」が減少し、「費用が掛かる」、「手間や時間がかかる」が増加した。

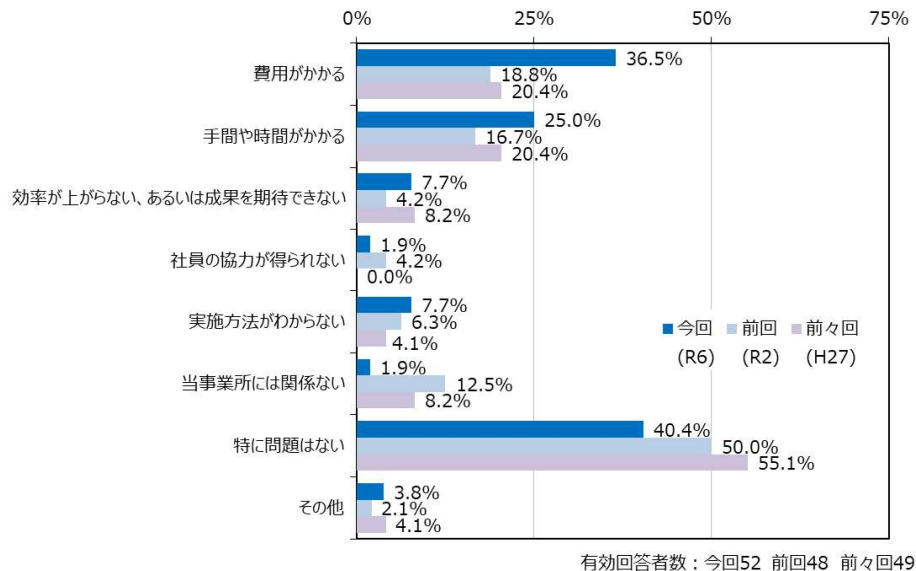
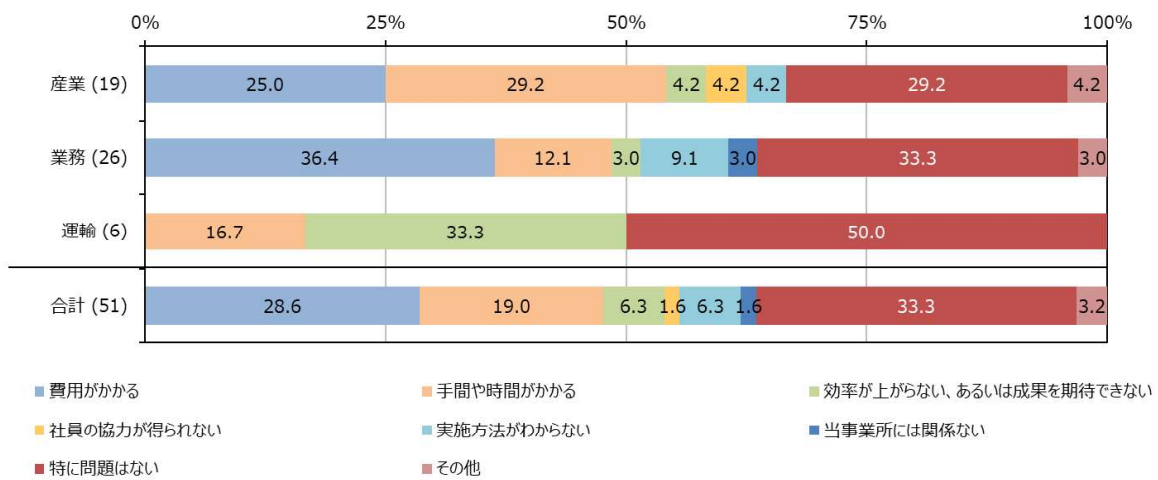


図 3-4-18 問5の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

どの部門においても約30%の事業者が「特に問題はない」と回答しているが、業務部門では「費用がかかる」、産業部門では「手間や時間がかかる」と回答している事業者も同程度存在する。



()内数値：有効回答者数（複数回答）

図 3-4-19 問5のクロス集計結果（部門別）

問 6 現在、実施している環境保全対策【複数回答】

<単純集計>

「 unnecessary照明を消したり、冷暖房などの省エネ運転などの推進」や、「事業所で使用する用紙などの再生紙の使用」などハードルが低い取組が多くの上業者で行われている。一方で、「環境会計の導入」、「環境憲章や環境保全ガイドラインの遂行」、「事業活動に伴う環境問題を専門的に担当する部門や組織の設置」などの専門知識が必要な取組を行っている事業者は見られなかった。

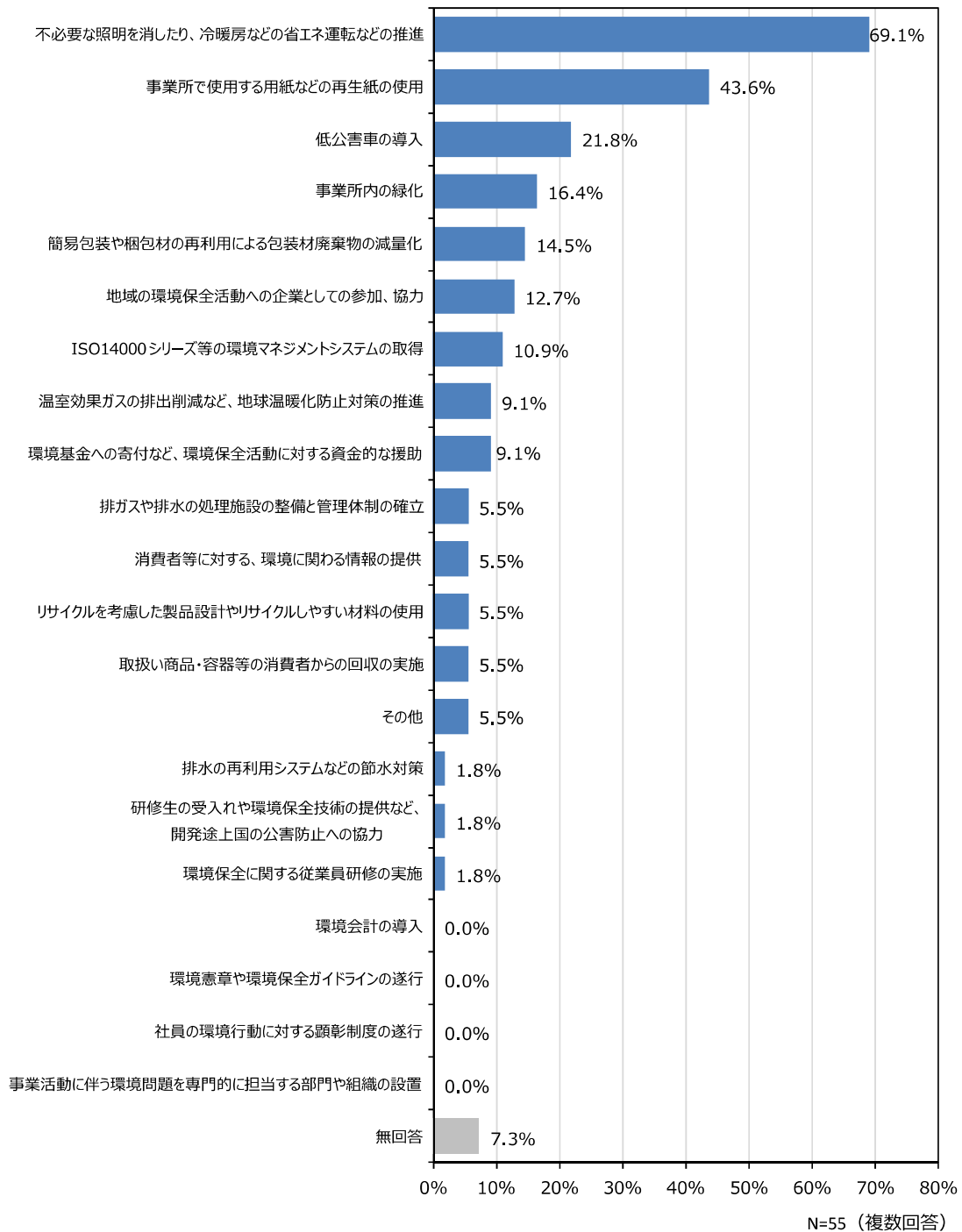
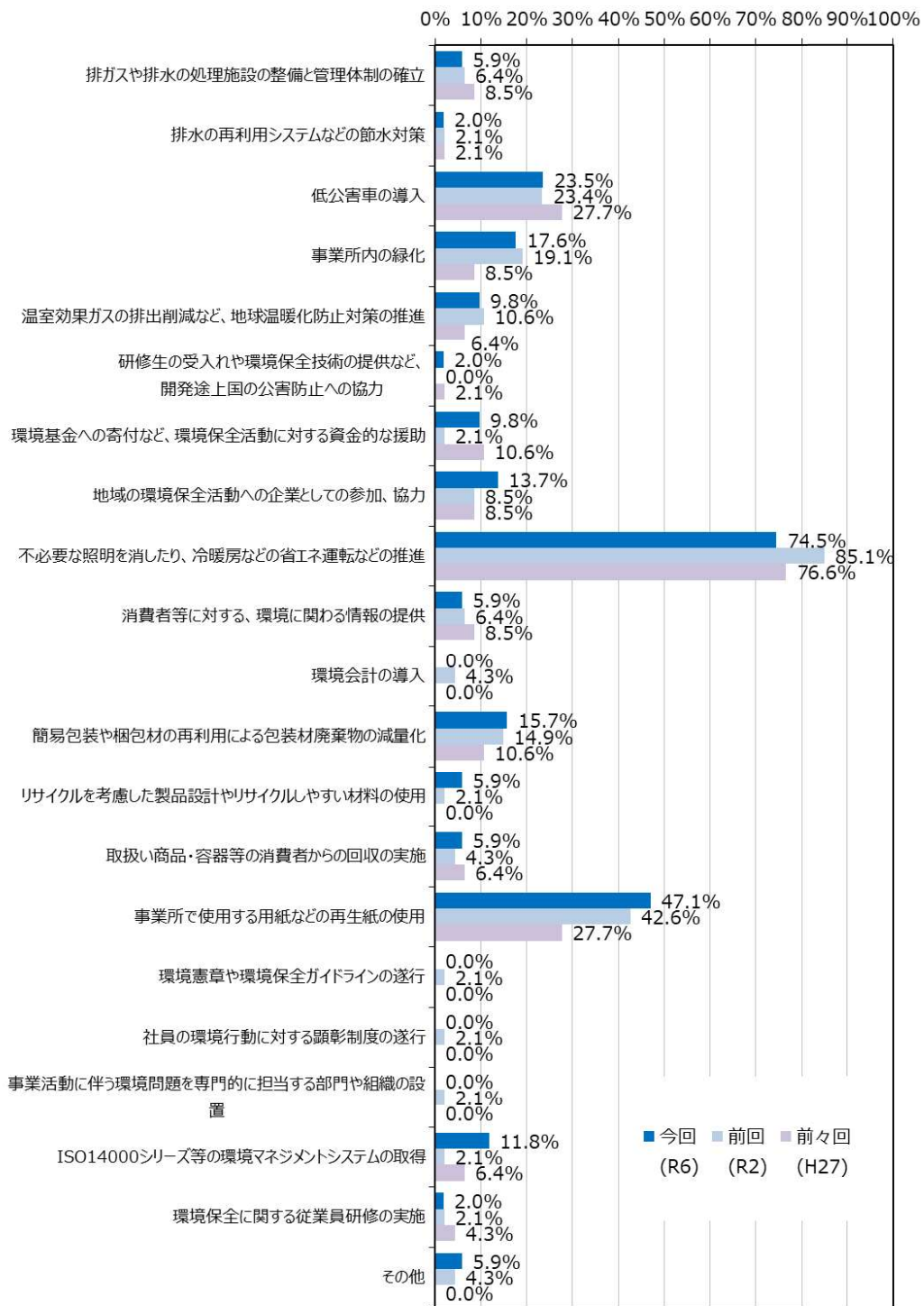


図 3-4-20 問 6 の単純集計結果

<経年比較>

「事業所で使用する用紙などの再生紙の使用」に取り組む事業者が増加し、「ISO14000 シリーズ等の環境マネジメントシステムの取得」については大幅に増加している。



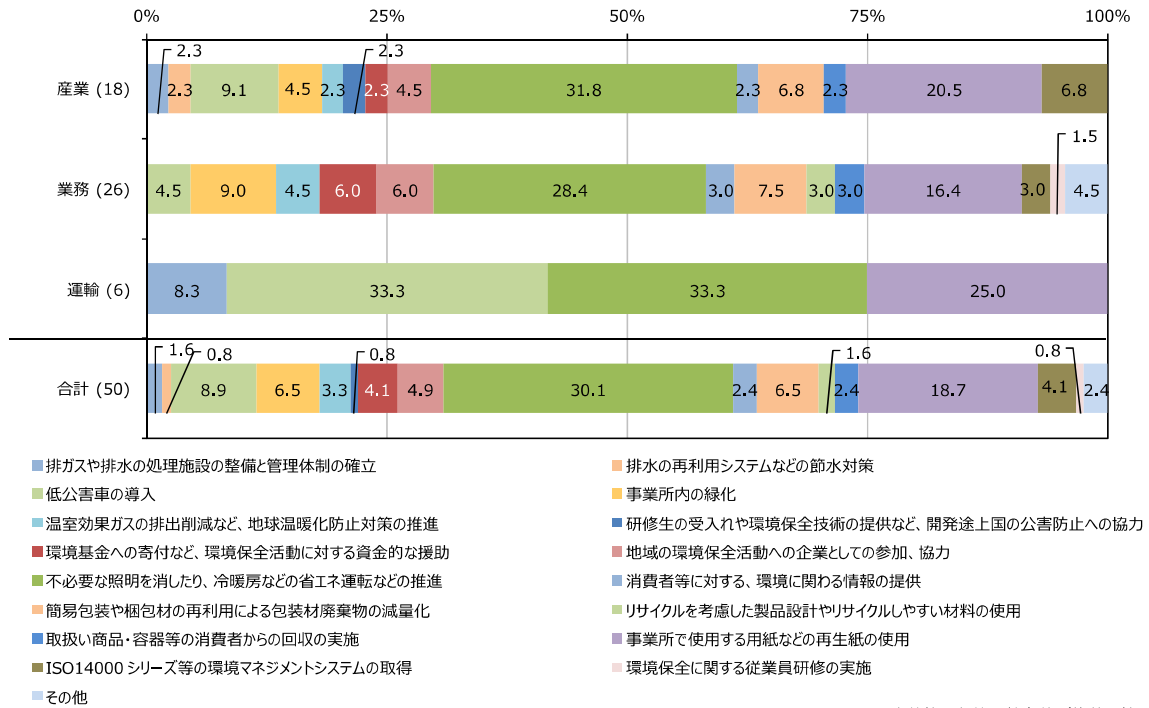
有効回答者数：今回51 前回47 前々回47

図 3-4-21 問5の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

部門別では、どの部門も共通して「 unnecessaryな照明を消したり、冷暖房などの省エネ運転などの推進」、「事業所で使用する用紙などの再生紙の使用」と回答した事業者の割合が高いが、運輸部門では「低公害車の導入」と回答した事業者の割合が高い。



()内数値：有効回答者数（複数回答）

図 3-4-22 問 6 のクロス集計結果（部門別）

問7 今後、実施を予定している環境保全対策【複数回答】

<単純集計>

問6と同様に、「不必要な照明を消したり、冷暖房などの省エネ運転などの推進」や、「事業所で使用する用紙などの再生紙の使用」などハードルが低い取組が多くの事業者で予定されている。また、「環境会計の導入」、「環境憲章や環境保全ガイドラインの遂行」、「事業活動に伴う環境問題を専門的に担当する部門や組織の設置」などの専門知識が必要な取組を予定している事業者は少なく、行政の支援や事業者間でのノウハウの共有が期待される。

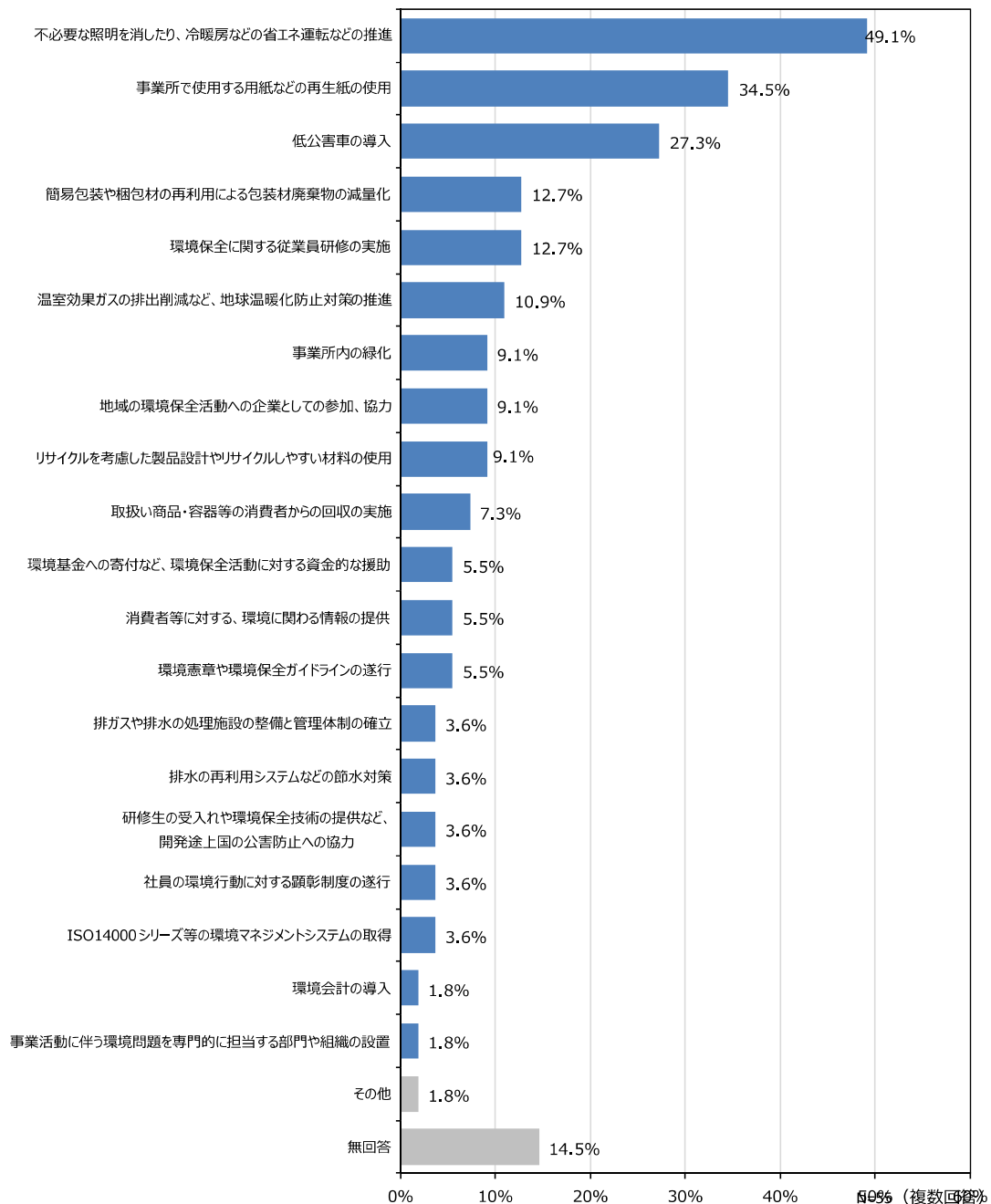
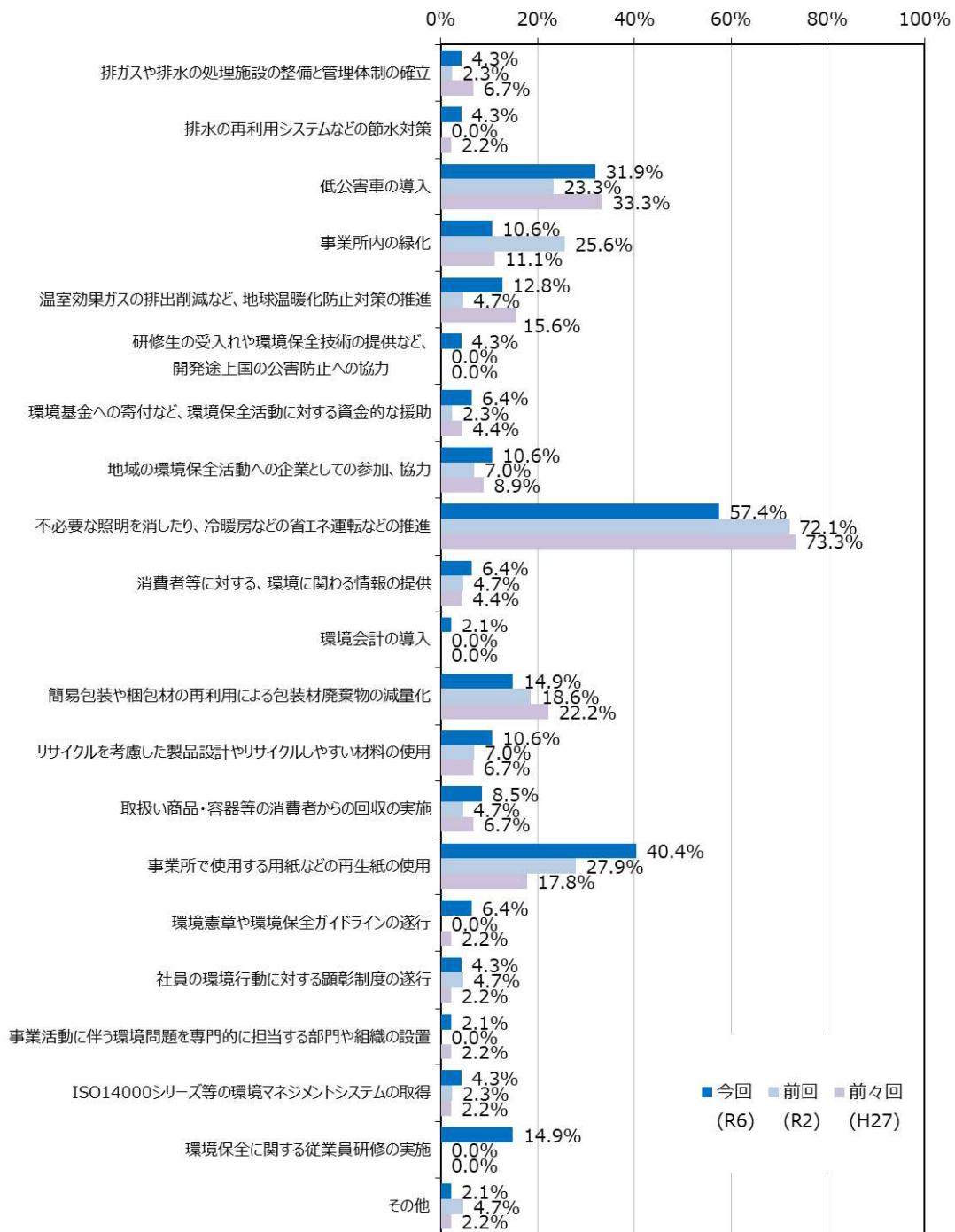


図 3-4-23 問7の単純集計結果

<経年比較>

「事業所で使用する用紙などの再生紙の使用」や、「環境保全に関する従業員研修の実施」を行う事業者は増加した。「不必要な照明を消したり、冷暖房などの省エネ運転などの推進」では、問6よりすでに取り組んでいる事業者が多く、予定している事業者が減少した。「低公害車の導入」と回答した事業者に関しては、前々回と比較して増加しておらず、より導入促進を行うには補助金の適用が考えられる。



有効回答者数：今回47 前回43 前々回45

図 3-4-24 問7の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

部門別では、問6と同様にどの部門も共通して「 unnecessaryな照明を消したり、冷暖房などの省エネ運転などの推進」、「事業所で使用する用紙などの再生紙の使用」と回答した事業者の割合が高い。一方で、「低公害車の導入」に関しては運輸部門のみならず業務部門でも回答した事業者の割合が高い。

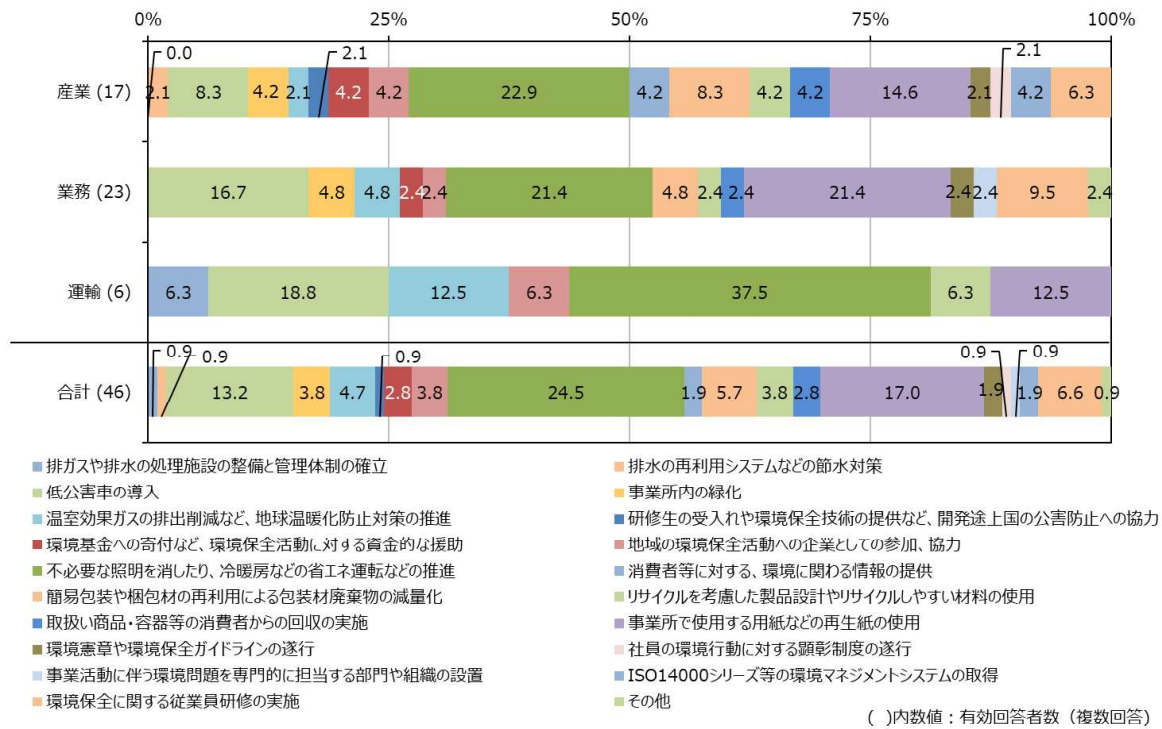


図 3-4-25 問7のクロス集計結果（部門別）

問 8 SDGs の認知度【単独回答】

<単純集計>

32.7%の事業者が「認識しており、SDGsに関連する取組を行っている」と回答しており、何らかのSDGsに関する取組を実施している。一方で36.4%の事業者が、「認知しているが特にSDGsに関する取組は行っていない」と回答しており、環境経営やそのメリットなどの普及啓発が課題となる。

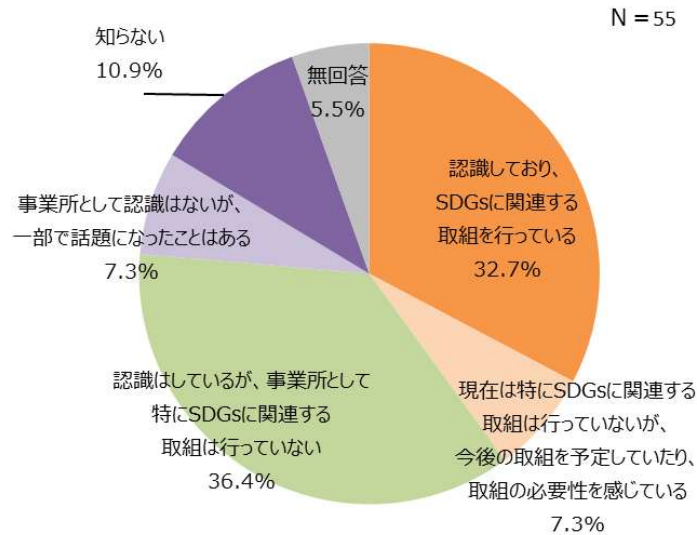
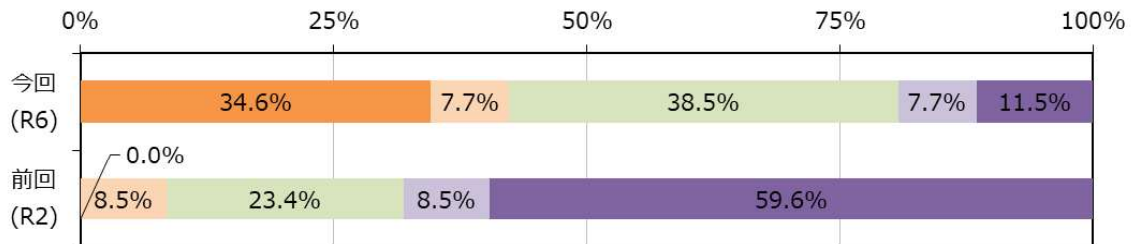


図 3-4-26 問 8 の単純集計結果

<経年比較>

前は「認識しており、SDGsに関連する取組を行っている」と回答した事業者はいなかったが、今回は約35%の事業者が回答しており、SDGsに関連する取組を行う事業者が急速に増加している。

※前々回は未実施



- 認識しており、SDGsに関連する取組を行っている
- 現在は特にSDGsに関連する取組は行っていないが、今後の取組を予定していたり、取組の必要性を感じている
- 認識はしているが、事業所として特にSDGsに関連する取組は行っていない
- 事業所として認識はないが、一部で話題になったことはある
- 知らない

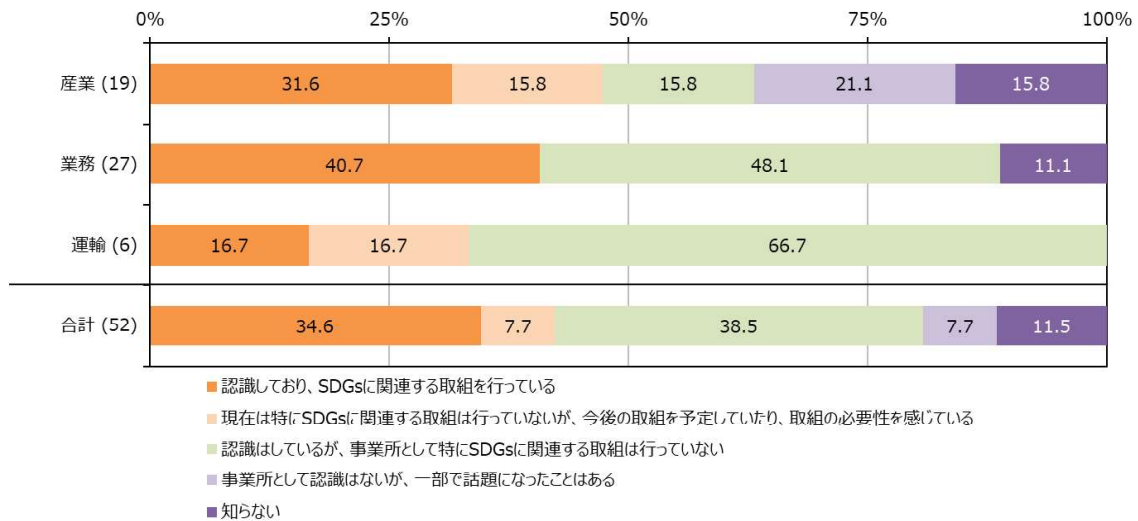
有効回答者数：今回52 前回47

図 3-4-27 問 8 の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

産業部門では、「事業所として認識はないが、一部で話題になったことはある」、「知らない」の割合が高い。



()内数値：有効回答者数

図 3-4-28 問8のクロス集計結果（部門別）

(3) 事業所の環境保全に対する考え方について

問9 環境保全に対する企業の役割【複数回答】

<単純集計>

「事業活動に伴う環境への影響(排ガスや排水、廃棄物)の可能な限りの低減」について54.5%の事業者が企業の役割と認識している。

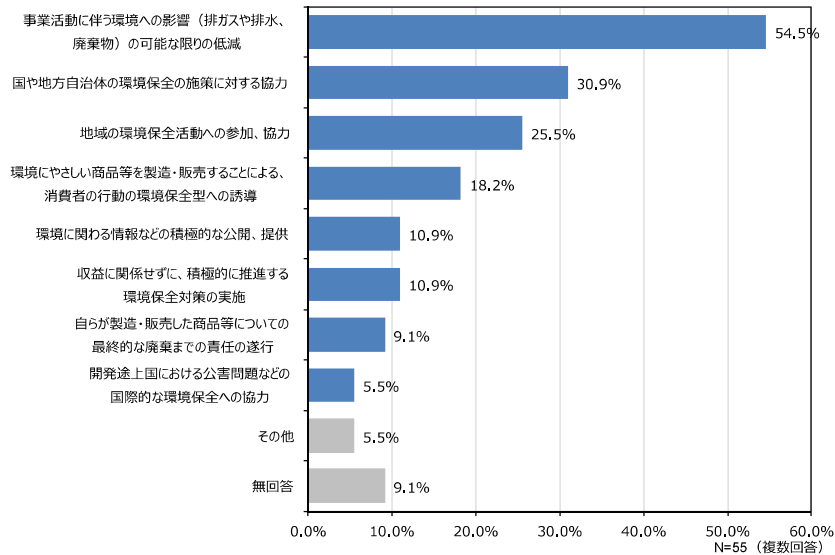


図 3-4-29 問9の単純集計結果

<経年比較>

「収益に関係せず、積極的に環境保全対策の実施」と回答した事業者が年々増加しており、環境問題の自分事化が事業者に広がっている。

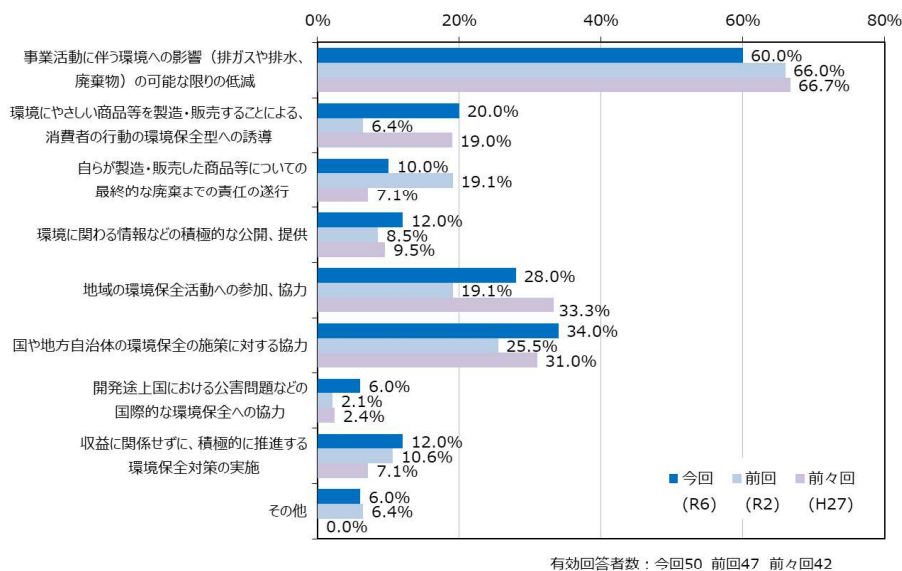


図 3-4-30 問9の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

全部門で「事業活動に伴う環境への影響（排ガスや排水、廃棄物）の可能な限りの低減」の割合が高いが、産業部門では「環境にやさしい商品等を製造・販売することによる、消費者の行動の環境保全型への誘導」、「国や地方自治体の環境保全の施策に対する協力」と回答した事業者の割合が高い。

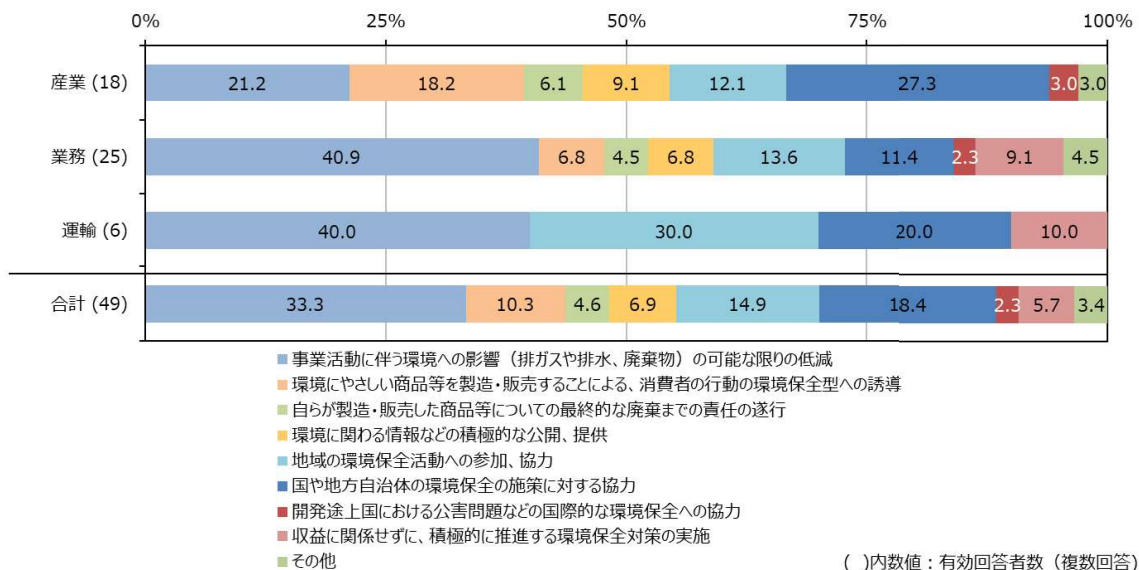


図 3-4-31 問9のクロス集計結果（部門別）

問 10 事業所が環境保全対策を一層進めていくための課題【単独回答】

<単純集計>

環境保全対策を実施する上での問題点は、「特に障害はない」と回答する事業者も 23.6%と多いが、「対策を行うための資金が不足している」と回答している事業者は 32.7%と多く、「環境問題の現状や具体的対応策に関する情報がない」と回答している事業者もある程度存在し、これらのギャップを行政が支援していくことが求められている。

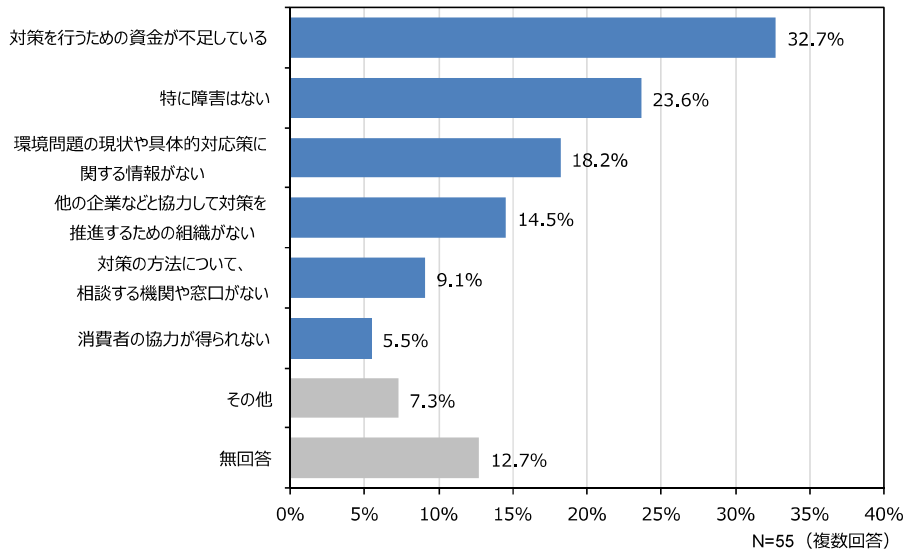


図 3-4-32 問 10 の単純集計結果

<経年比較>

前回と比較し、「特に障害はない」と回答する事業者が大幅に減少した。一方で、「対策を行うための資金が不足している」や「対策の方法について、相談する機関や窓口がない」や「消費者の協力が得られない」といった回答が前回から増加している。

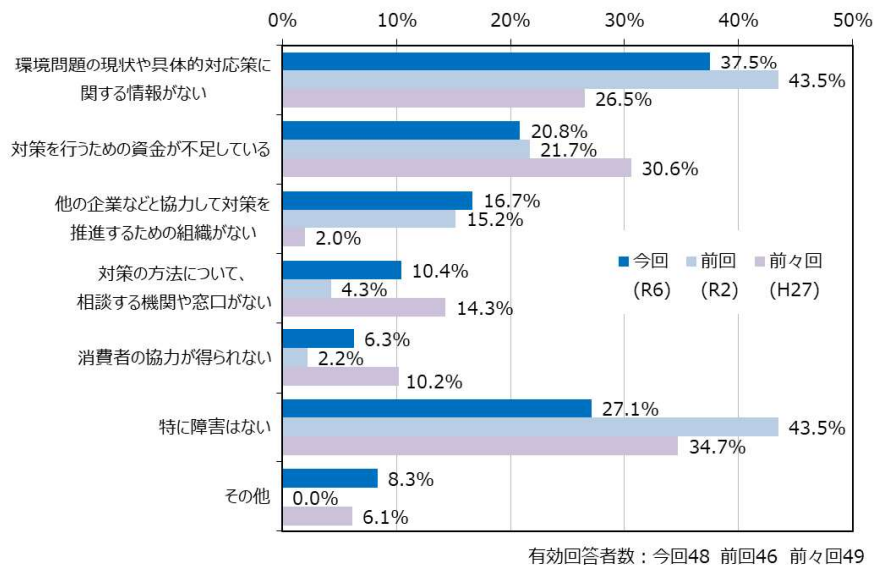
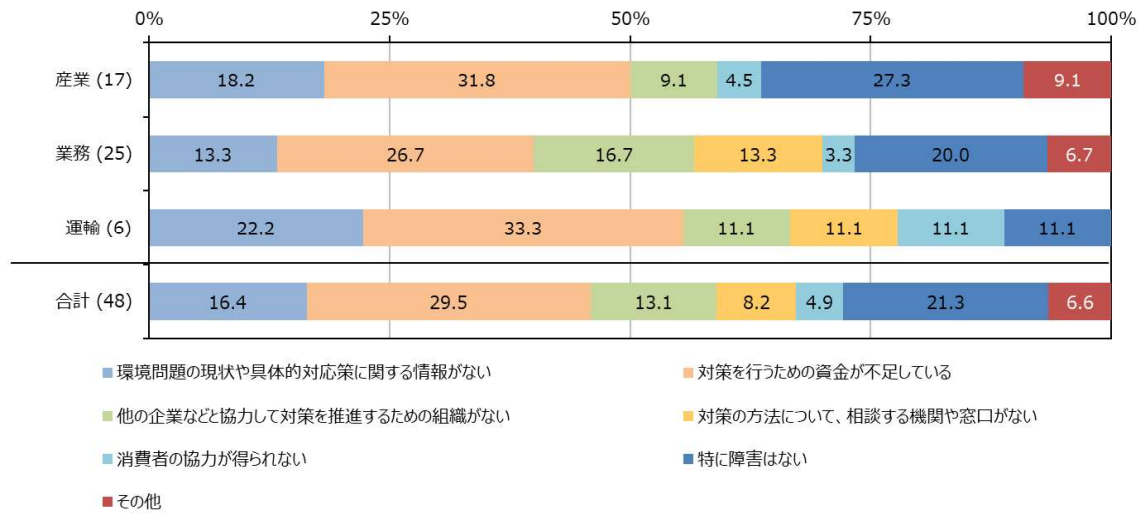


図 3-4-33 問 10 の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

産業部門では「特に障害はない」と回答した事業者の割合が高く、「対策の方法について、相談する機関や窓口がない」の回答は無い。一方で運輸部門では「特に障害はない」と回答した事業者の割合が低く、「対策を行うための資金が不足している」と回答した事業者の割合が高い。



()内数値：有効回答者数（複数回答）

図 3-4-34 問 10 のクロス集計結果（部門別）

問 11 白岡市の環境を改善していくための今後の姿勢【単独回答】

＜単純集計＞

21.8%の事業者が、「金銭的な負担や規制が増えたり不自由さを感じるようになったりしてもかまわない」と回答しているが、残りの事業者は金銭的な負担が増えることに抵抗感を示している。

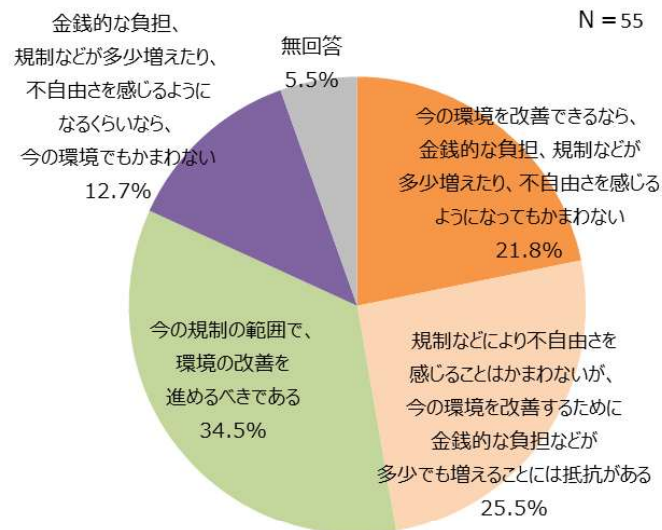
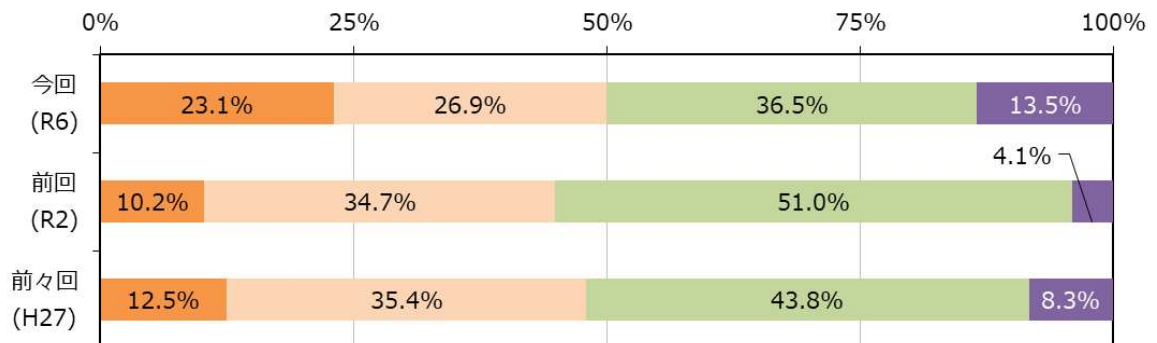


図 3-4-35 問 11 の単純集計結果

＜経年比較＞

「金銭的な負担や規制が増えたり不自由さを感じるようになったりしてもかまわない」と回答している事業者が増加しているが、「金銭的な負担や規制が増えたり不自由さを感じるなら今の環境のままだでも構わない」という否定的な意見も増加しており、二極化が進んでいる。



- 今の環境を改善できるなら、金銭的な負担、規制などが多少増えたり、不自由さを感じるようになってもかまわない
- 規制などにより不自由さを感じることはかまわないが、今の環境を改善するために金銭的な負担などが多少でも増えることには抵抗がある
- 今の規制の範囲で、環境の改善を進めるべきである
- 金銭的な負担、規制などが多少増えたり、不自由さを感じるようになるくらいなら、今の環境でもかまわない

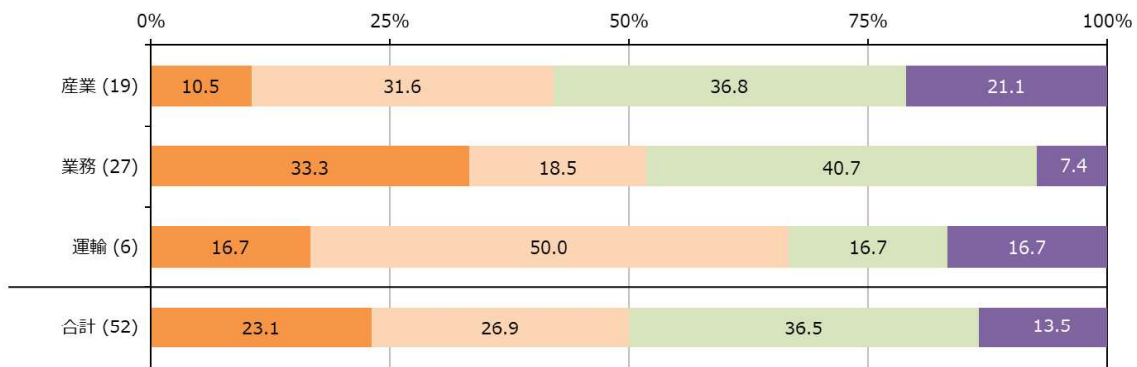
有効回答者数：今回52 前回49 前々回48

図 3-4-36 問 11 の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

産業部門では、「今の環境を改善できるなら、金銭的な負担、規制などが多少増えたり、不自由さを感じるようになってもかまわない」と回答した事業者の割合が低く、「金銭的な負担、規制などが多少増えたり、不自由さを感じるようになるくらいなら、今の環境でもかまわない」と回答した事業者の割合が高い。運輸部門では「規制などにより不自由さを感じることはかまわないが、今の環境を改善するために金銭的な負担などが多少でも増えることには抵抗がある」と回答した事業者の割合が高い。



- 今の環境を改善できるなら、金銭的な負担、規制などが多少増えたり、不自由さを感じるようになってもかまわない
- 規制などにより不自由さを感じることはかまわないが、今の環境を改善するために金銭的な負担などが多少でも増えることには抵抗がある
- 今の規制の範囲で、環境の改善を進めるべきである
- 金銭的な負担、規制などが多少増えたり、不自由さを感じるようになるくらいなら、今の環境でもかまわない

()内数値：有効回答者数

図 3-4-37 問 11 のクロス集計結果（部門別）

(4) 環境づくりへの参加について

問 12 参加してみたい自主的な環境づくり活動【単独回答】

<単純集計>

市民と同様に、「ごみゼロ・クリーン運動等の地域の清掃・美化活動」、「地域の防災活動」、「植樹やガーデニング等の地域の緑化活動」といった地域に関連した環境づくり活動が求められている傾向が得られた。地域の市民のみならず、事業者を交えた環境づくり活動が求められている。

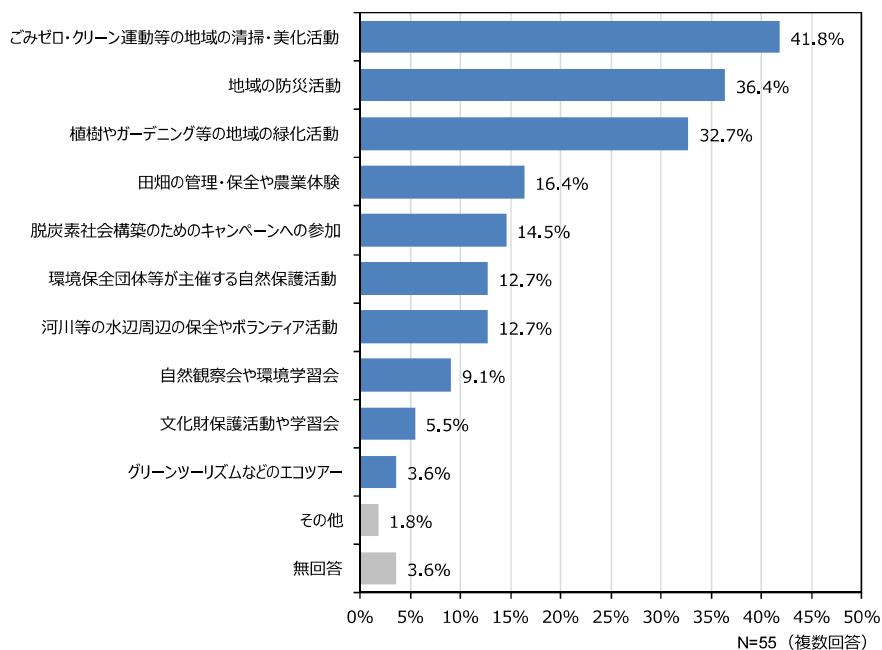
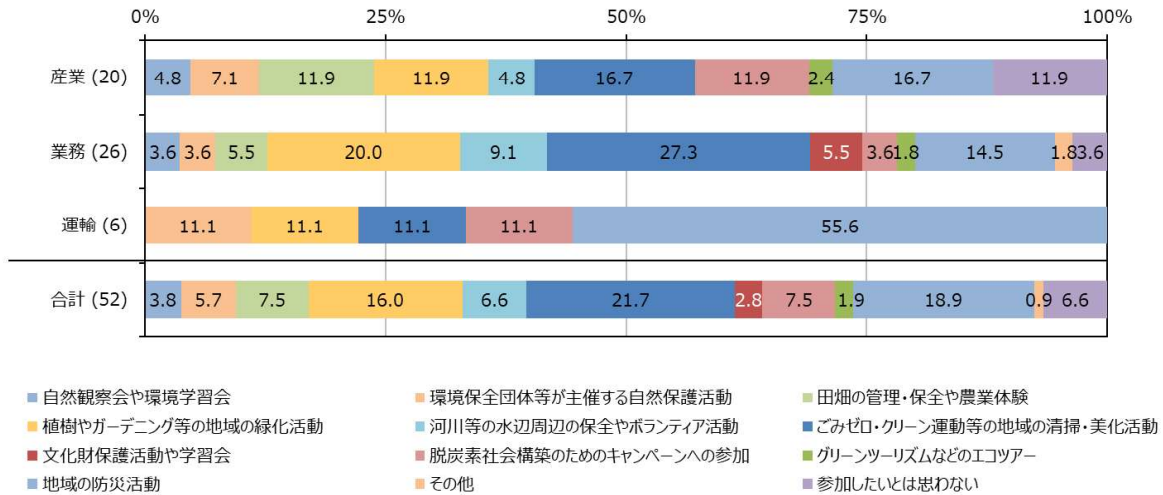


図 3-4-38 問 12 の単純集計結果

<クロス集計>

■部門別クロス集計

産業部門では、「参加したいとは思わない」と回答した事業者の割合が高い。運輸部門では「地域の防災活動」と回答した事業者の割合が高い。



()内数値：有効回答者数（複数回答）

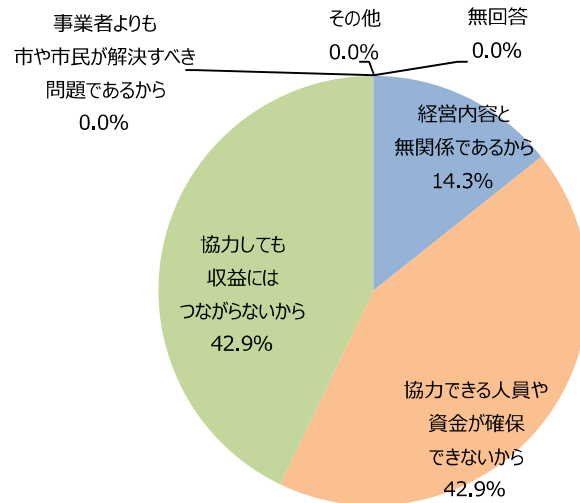
図 3-4-39 問 12 のクロス集計結果（部門別）

問 13 市民・事業者の連携による自主的な環境づくりに参加したいと思わない理由【単独回答】

※問 12 で「参加したいと思わない」と回答した場合

<単純集計>

参加したくない理由については、約 60%の事業者が経営内容との関係や収益につながらないことを理由としている。

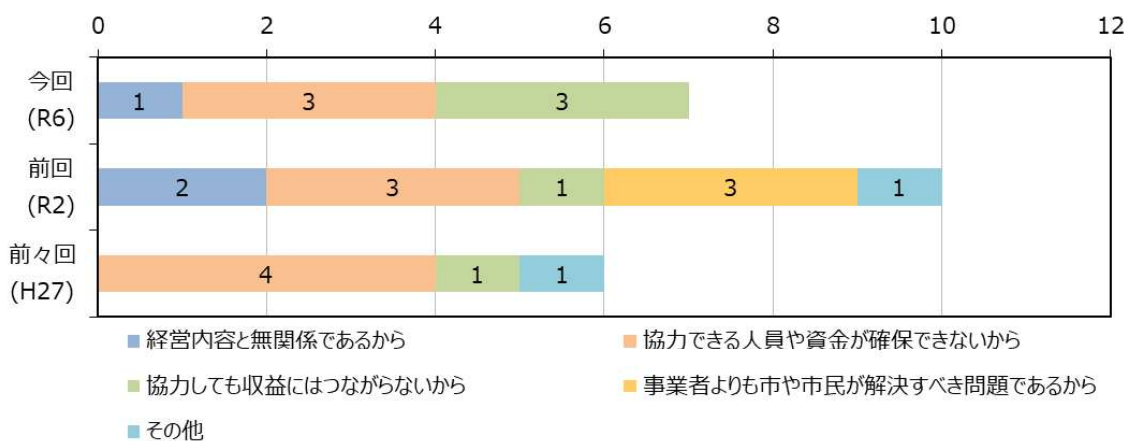


N = 7

図 3-4-40 問 13 の単純集計結果

<経年比較>

「参加したくない」と回答した事業者数が少ないため、参加したくない理由は年によって異なるが、人員や資金の確保が主な課題と考えられる。



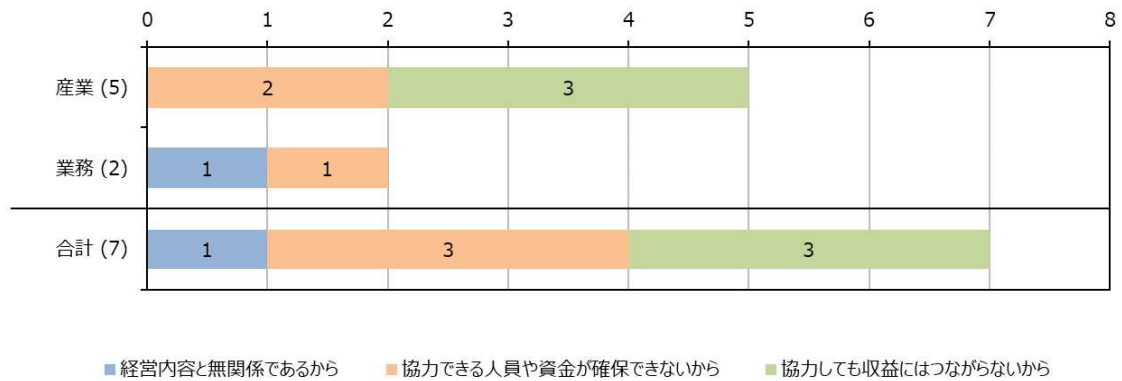
有効回答者数：今回7 前回10 前々回6

図 3-4-41 問 13 の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

部門別では、産業部門では「協力できる人員や資金が確保できないから」の他に、「協力しても収益には繋がらないから」と回答した事業者が見られ、環境づくり活動への参加によるメリット等の啓発が課題となる。



()内数値：有効回答者数

図 3-4-42 問 13 のクロス集計結果（部門別）

問 14 市民や事業者が白岡市の環境づくりに参加するために、市が重点的に取り組むべきこと

【単独回答】

<単純集計>

どの選択肢も一定以上の要望があり、情報公開や支援事業等を幅広く取り組んでいくことが求められている。

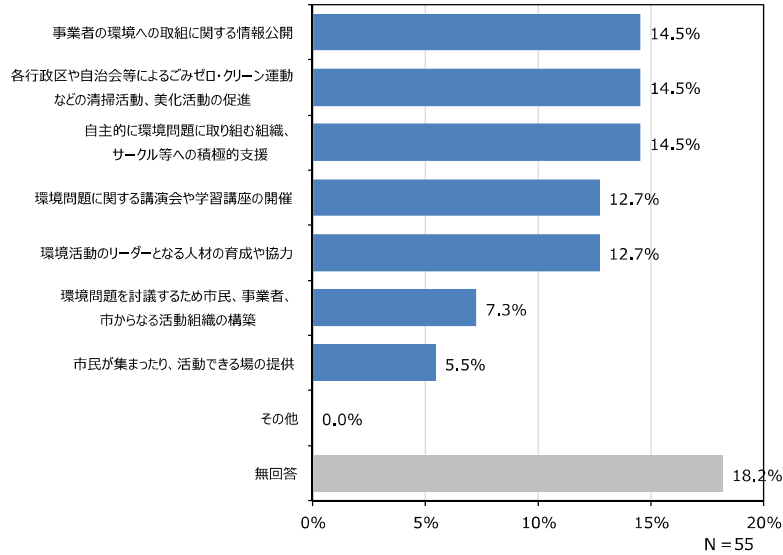
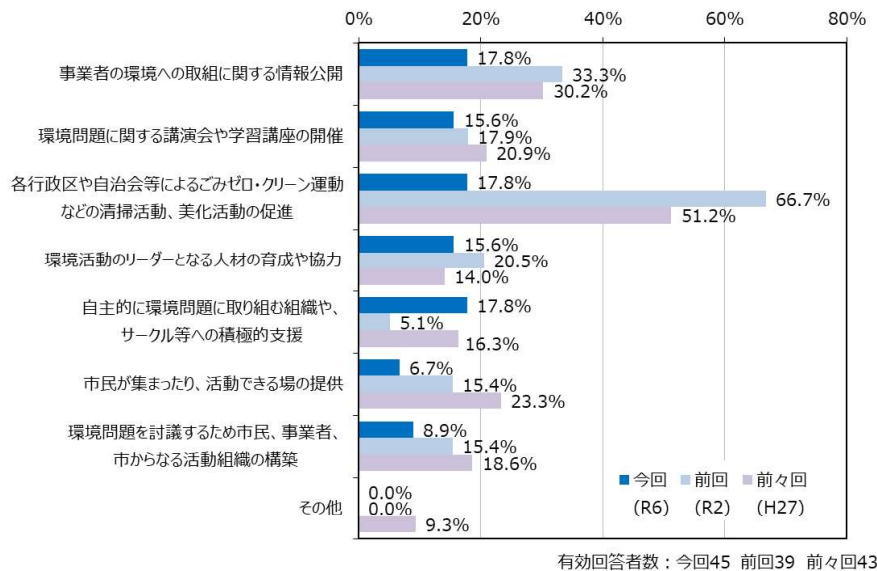


図 3-4-43 問 14 の単純集計結果

<経年比較>

「各行政区や自治会等によるごみゼロ・クリーン運動などの清掃活動、美化活動の促進」について、前回から得票率が大幅に減少している。



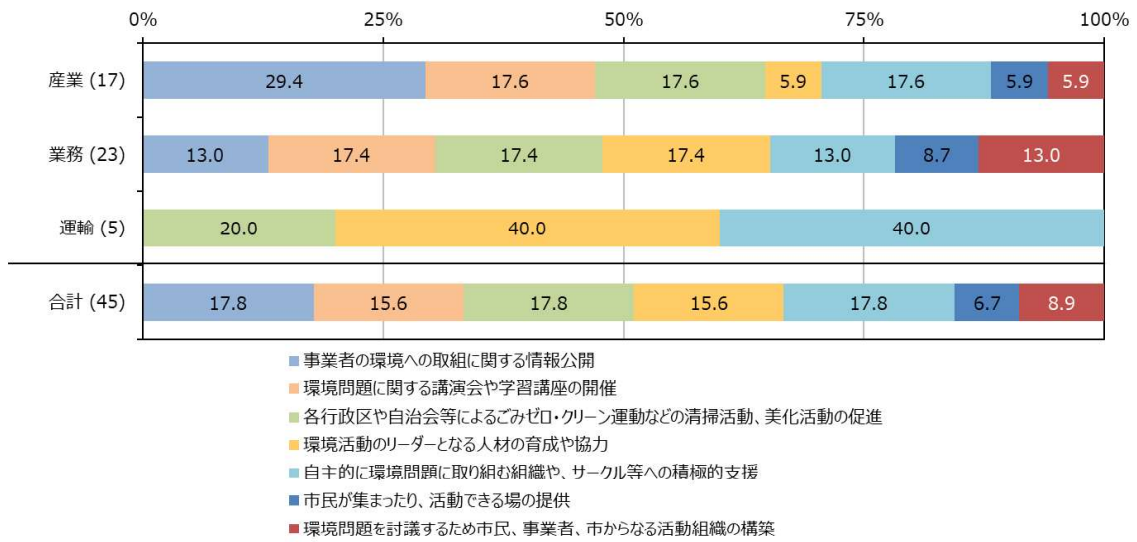
有効回答者数：今回45 前回39 前々回43

図 3-4-44 問 14 の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

産業部門では、「事業者の環境への取組に関する情報公開」と回答した事業者の割合が高い。運輸部門では「環境活動のリーダーとなる人材の育成や協力」と回答した事業者の割合が高い。



()内数値：有効回答者数

図 3-4-45 問 14 のクロス集計結果（部門別）

問 15 脱炭素化の取組を推進する上で、市に期待する施策【複数回答（3 つまで）】

＜単純集計＞

「次世代自動車（ハイブリッド車、電気自動車等）の導入に対する補助金制度等による支援」、
「再エネ（太陽光発電、バイオマス資源等）の導入に対する補助金制度等による支援」といっ
た、市民と同様に補助制度の導入が期待されている。

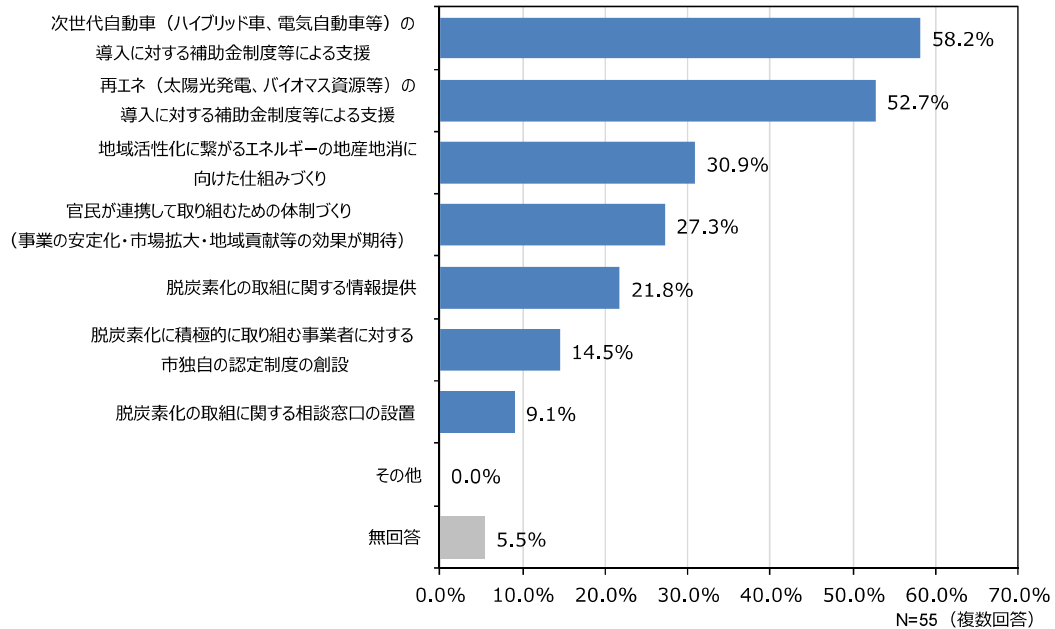
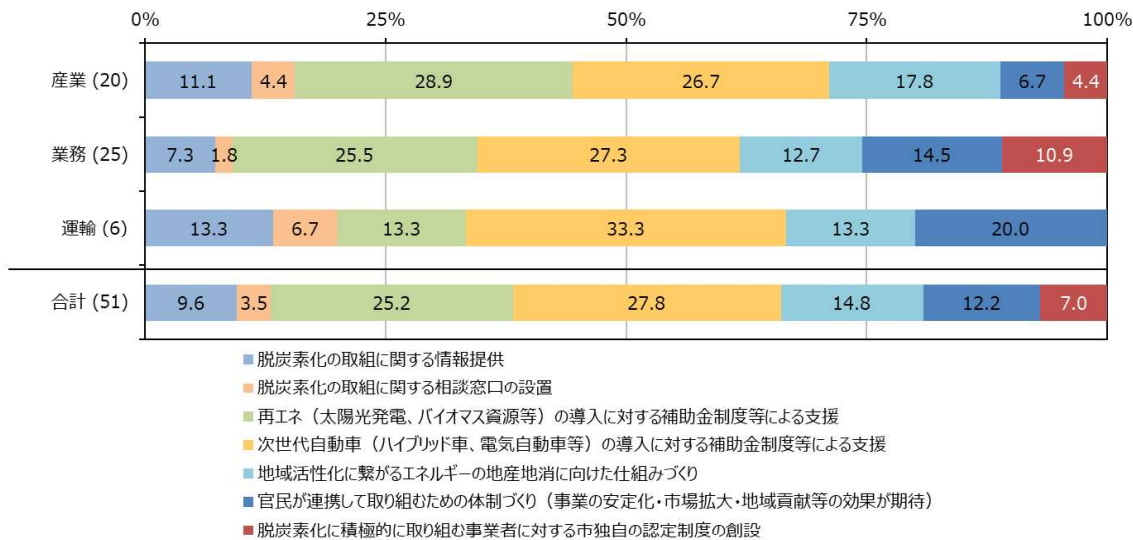


図 3-4-46 問 15 の単純集計結果

<クロス集計>

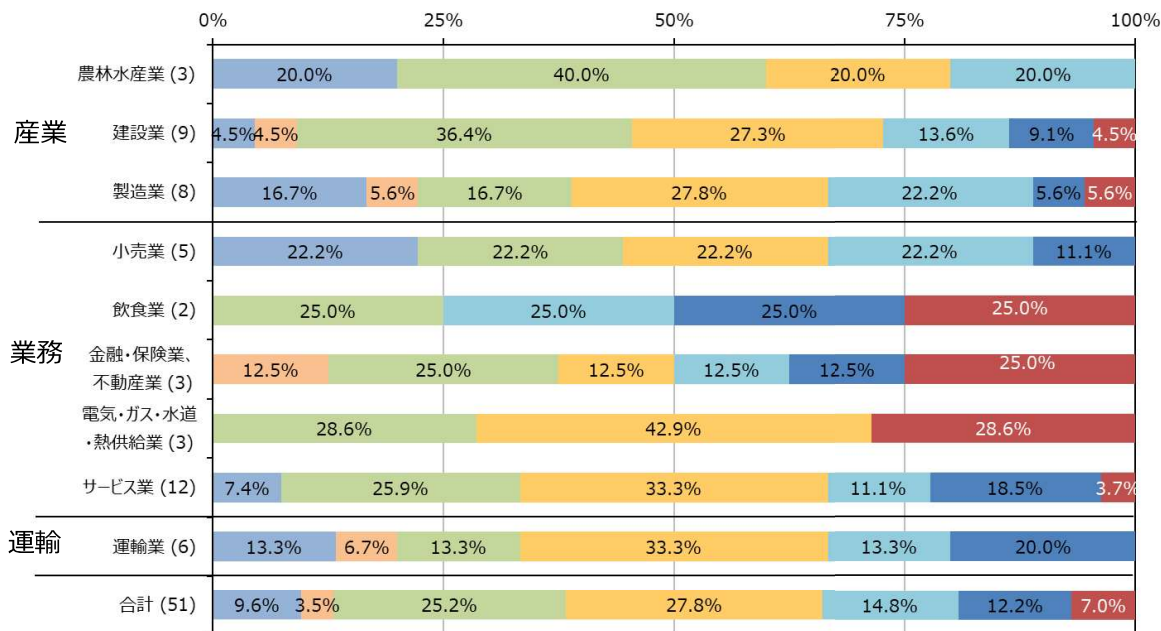
■部門別クロス集計

部門別では、「再エネ（太陽光発電、バイオマス資源等）の導入に対する補助金制度等による支援」に関しては全ての業種で回答した事業者の割合が高く、「次世代自動車（ハイブリッド車、電気自動車等）の導入に対する補助金制度等による支援」は飲食業を除く全ての業種で回答した事業者の割合が高い。



()内数値：有効回答者数（複数回答）

図 3-4-47 問 15 のクロス集計結果（部門別）



()内数値：有効回答者数（複数回答）

図 3-4-48 問 15 のクロス集計結果（部門別,詳細版）

問 16 白岡市の環境を守り改善していくために望ましい役割分担【単独回答】

＜単純集計＞

45.5%の事業者が「市民、事業者、市がそれぞれの責任を果たすとともに、三者が協力しながら環境を守り、育てる」と回答しており、市民、事業者、市の三者協力を求めている。また、「市が主体となって環境を守るための仕事をし、事業者と市民は協力する」ことも求められており、環境を守り改善していく上で三者の協力が重要となる。

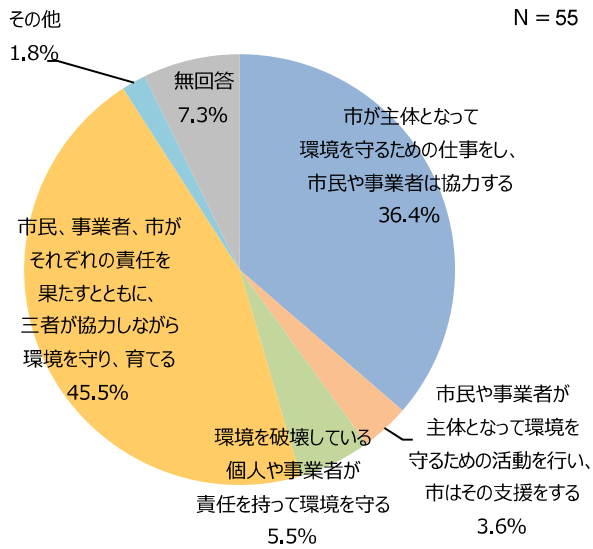
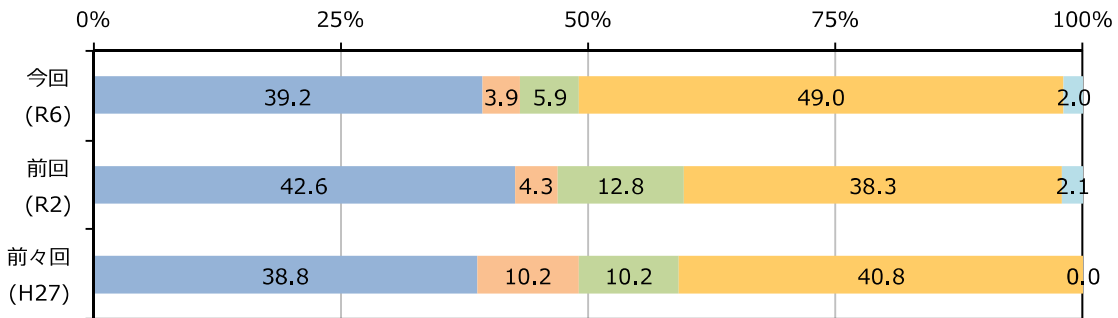


図 3-4-49 問 16 の単純集計結果

＜経年比較＞

過去 3 回とも、三者の協力が求められており、各主体が取り組んでいく必要があるとの認識が広がっていることが伺える。



- 市が主体となって環境を守るための仕事をし、市民や事業者は協力する
- 市民や事業者が主体となって環境を守るための活動を行い、市はその支援をする
- 環境を破壊している個人や事業者が責任を持って環境を守る
- 市民、事業者、市がそれぞれの責任を果たすとともに、三者が協力しながら環境を守り、育てる
- その他

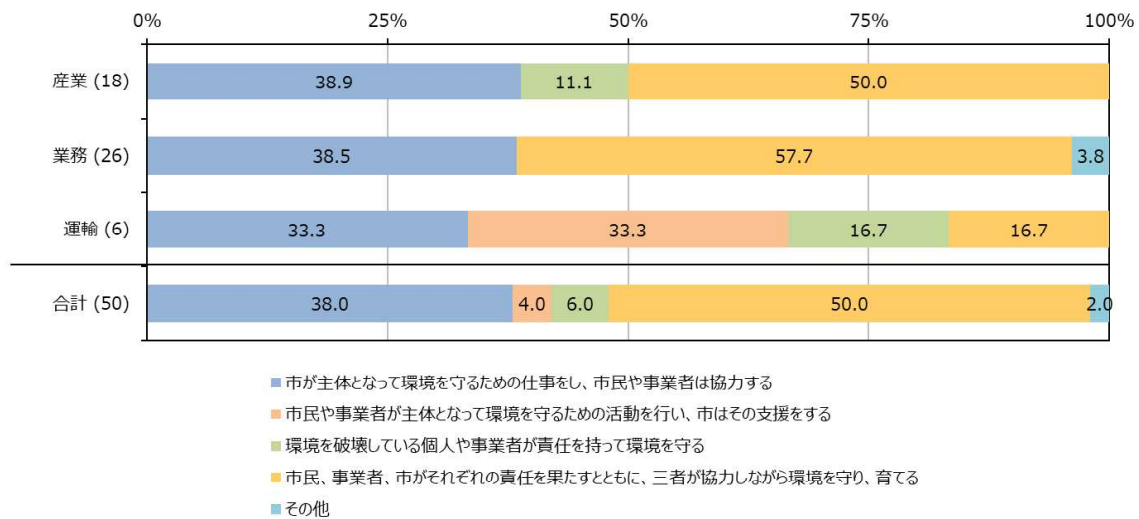
有効回答者数：今回 51 前回 47 前々回 49

図 3-4-50 問 16 の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

部門別では、運輸部門では「市民や事業者が主体となって環境を守るための活動を行い、市はその支援をする」と回答した事業者の割合が高い。



()内数値：有効回答者数

図 3-4-51 問 16 のクロス集計結果（部門別）

(5) 市の環境行政の在り方について

問 17 白岡市の環境基本条例や環境基本計画の認知度【単独回答】

<単純集計>

市民アンケートと比較し、「名前は知っているが内容は知らない」と回答した事業者の割合が高いが、「名前も内容も知っている」は市民と同程度であり、施策等の具体的な内容に関する情報発信が課題となる。

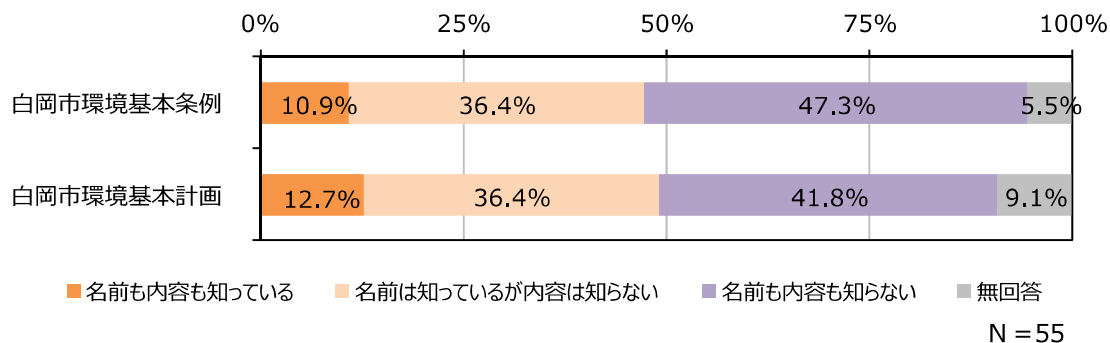
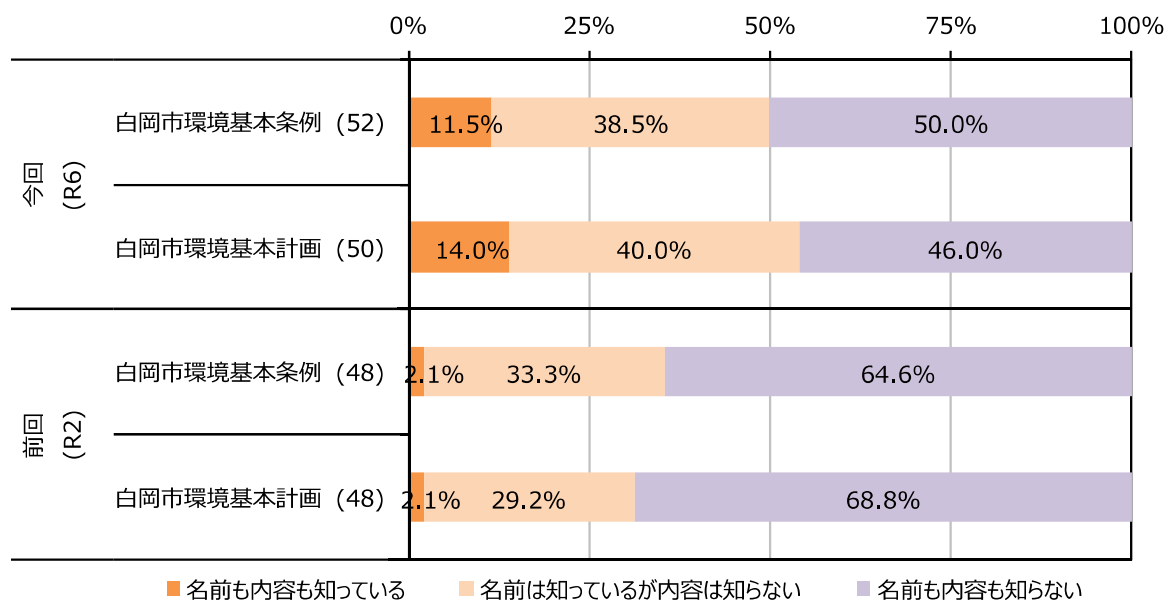


図 3-4-52 問 17 の単純集計結果

<経年比較>

前回と比較し、「名前も内容も知っている」と回答した事業者の割合が増加している。



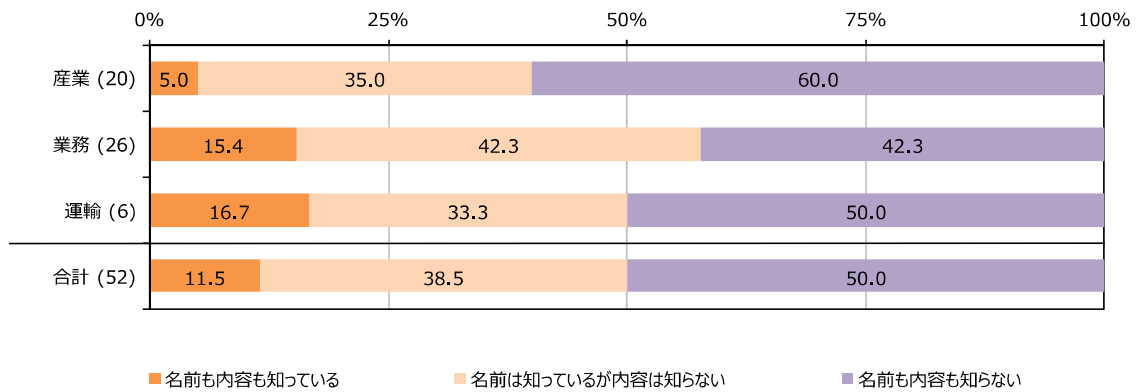
() 内数値：有効回答者数

図 3-4-53 問 17 の過年度比較

<クロス集計>

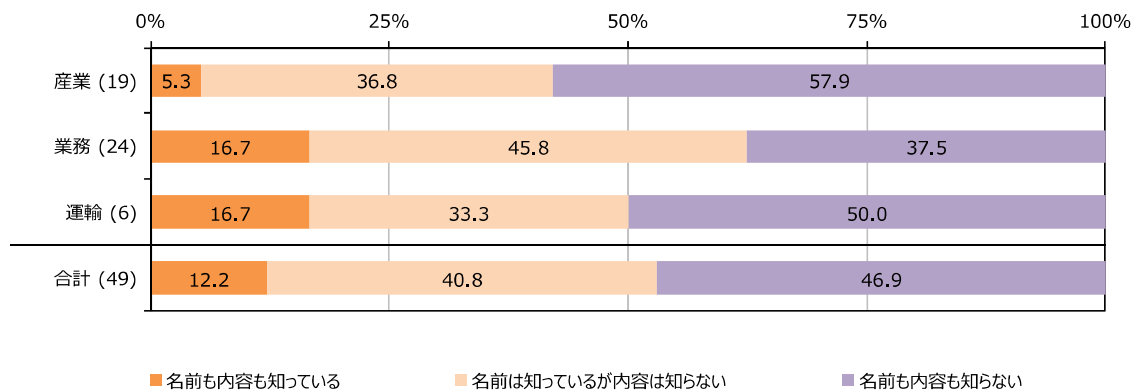
■部門別クロス集計

部門別では、環境基本計画、環境基本条例共に産業部門で「名前も内容も知っている」と回答した事業者の割合が低い。



()内数値：有効回答者数

図 3-4-54 問 17 のクロス集計結果 (部門別,環境基本計画)



()内数値：有効回答者数

図 3-4-55 問 17 のクロス集計結果 (部門別,環境基本条例)

問 18 環境基本計画の取組の効果【単独回答】

<単純集計>

ほとんどの項目で「よくわからない」が50%近く占めており、施策の効果に関する情報の周知が課題となる。「3R（リユース、リデュース、リサイクル）の推進」、「まちの安全対策の推進」、「歴史・文化の保護」、「環境美化活動の推進」に関しては、「効果があったと思う」と回答した割合が、「効果があったとは思えない」よりも高い。一方、「騒音・振動の防止」、「すぐれた景観の確保」、「健全な生物多様性の保全」、「快適でくつろげる空間の確保」については「効果があったとは思えない」と回答した割合の方が「効果があったと思う」と回答した割合が15%以上多い。

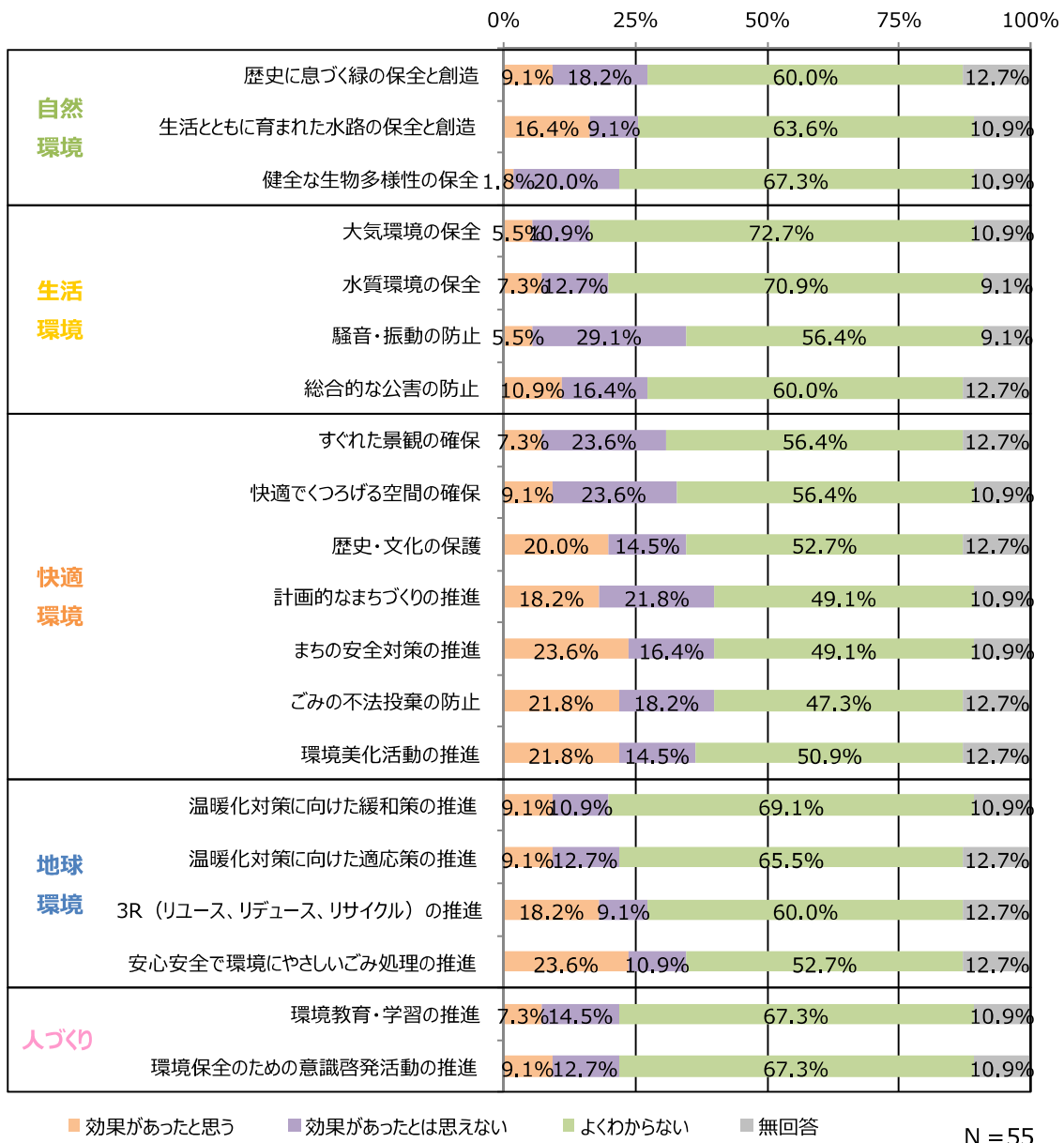
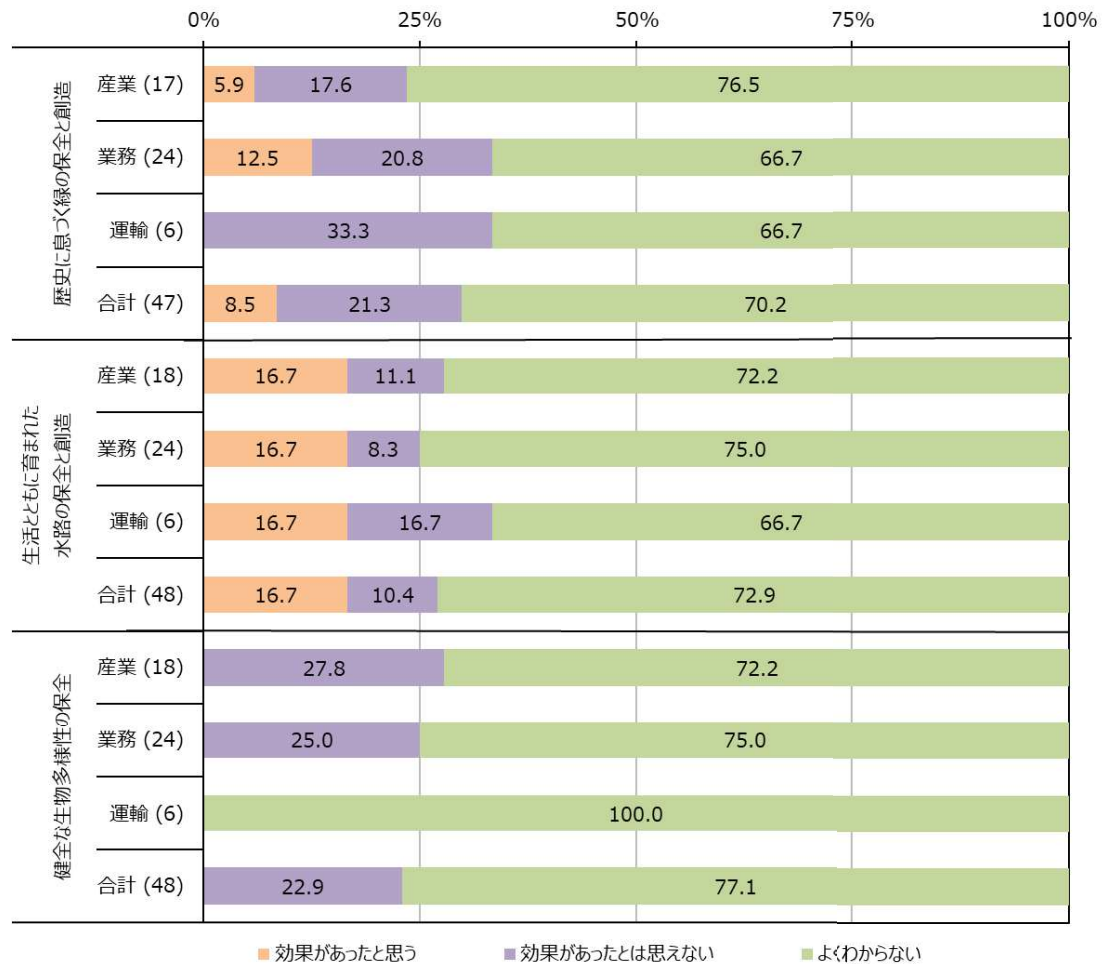


図 3-4-56 問 18 の単純集計結果

<クロス集計>

■部門別クロス集計

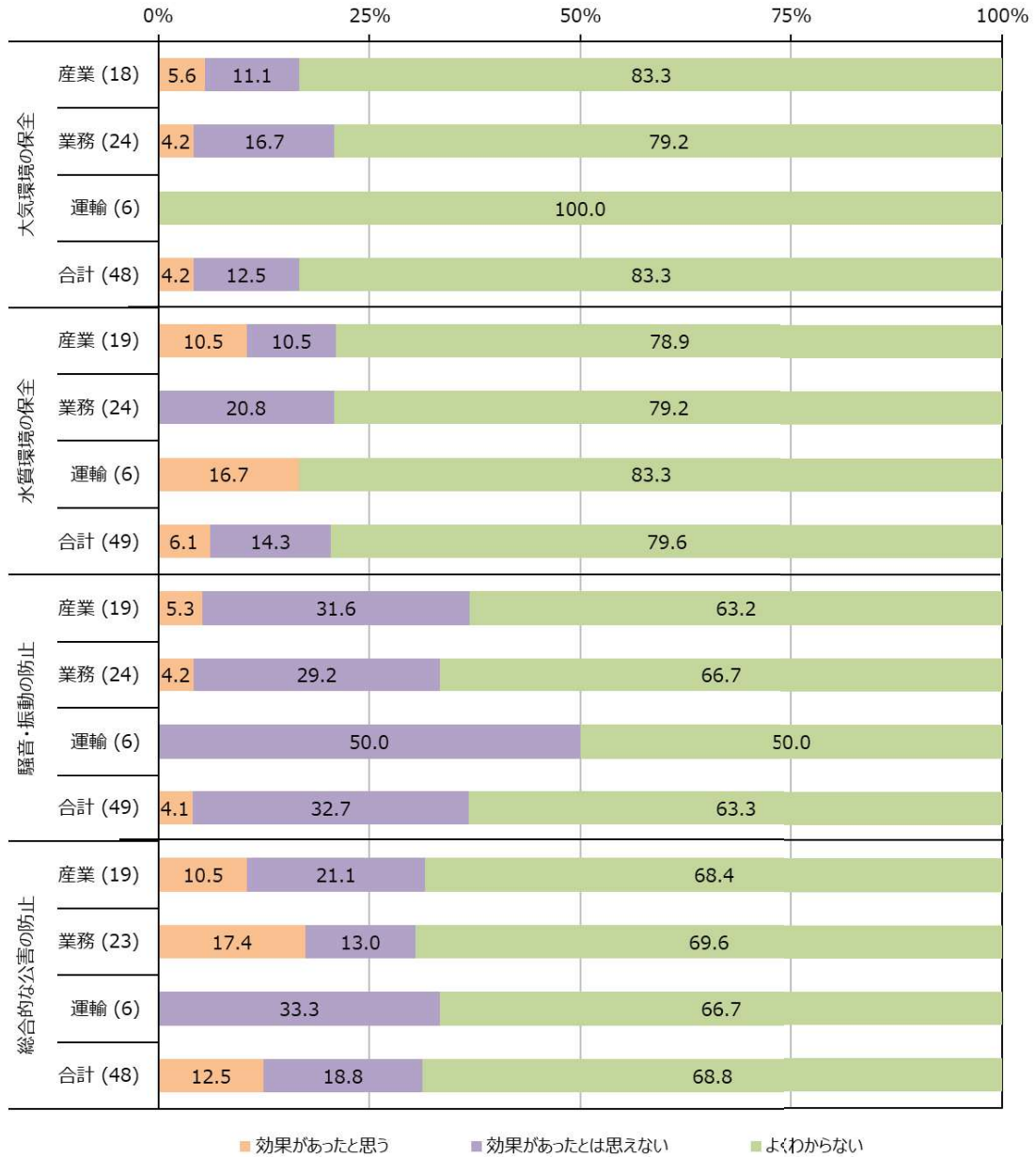
部門別では、自然環境については、健全な生物多様性の保全で「効果があったと思う」と回答した事業者がない。



()内数値：有効回答者数

図 3-4-57 問 18 のクロス集計結果 (部門別,自然環境)

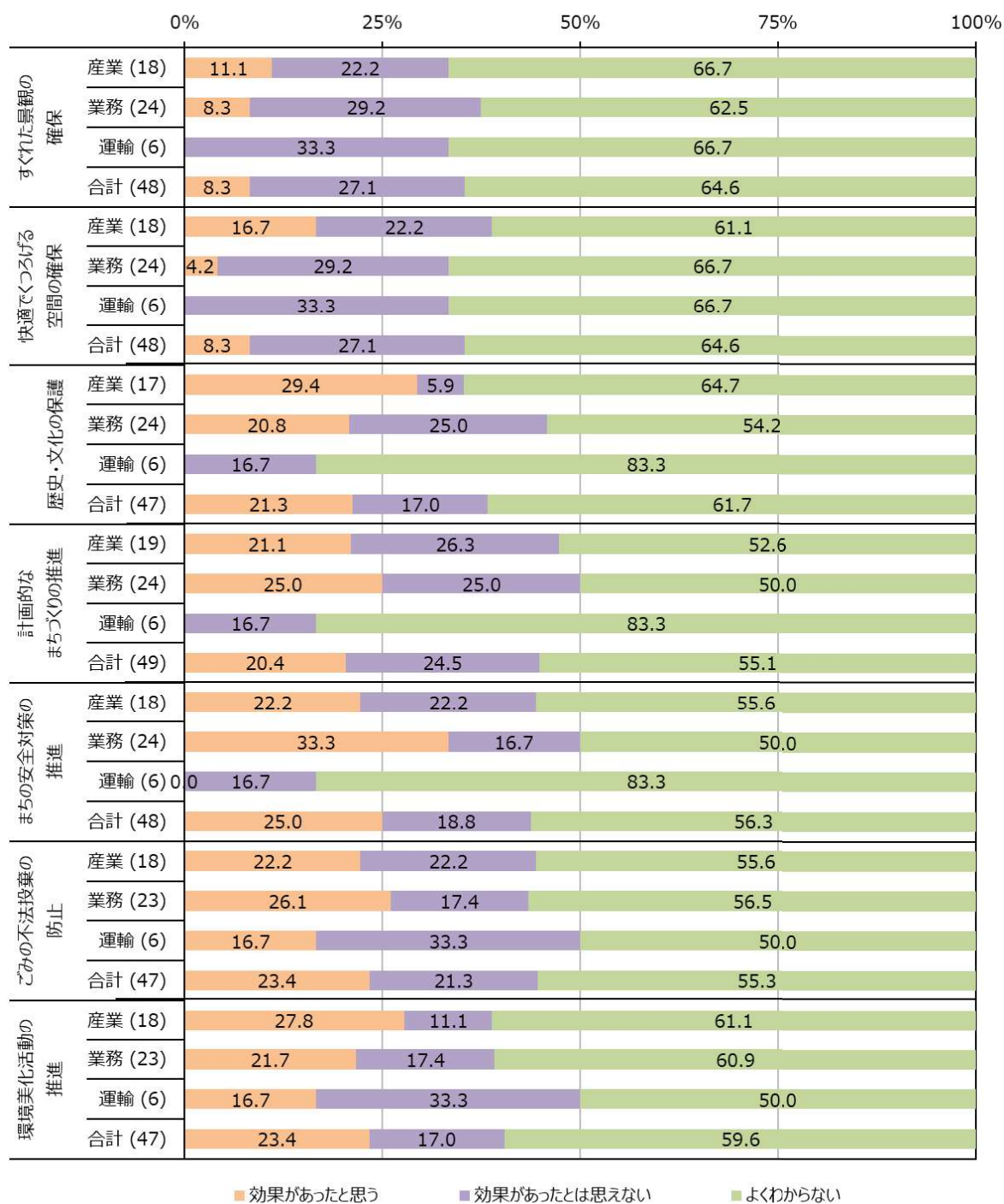
生活環境では、「水質汚染の保全」について、業務部門で「効果があったと思う」と回答した事業者が無く、「効果があったとは思えない」と回答した事業者の割合が高い。「総合的な公害の防止」では、産業部門で「効果があったとは思えない」と回答した事業者の割合が高い。



()内数値：有効回答者数

図 3-4-58 問 18 のクロス集計結果 (部門別,生活環境)

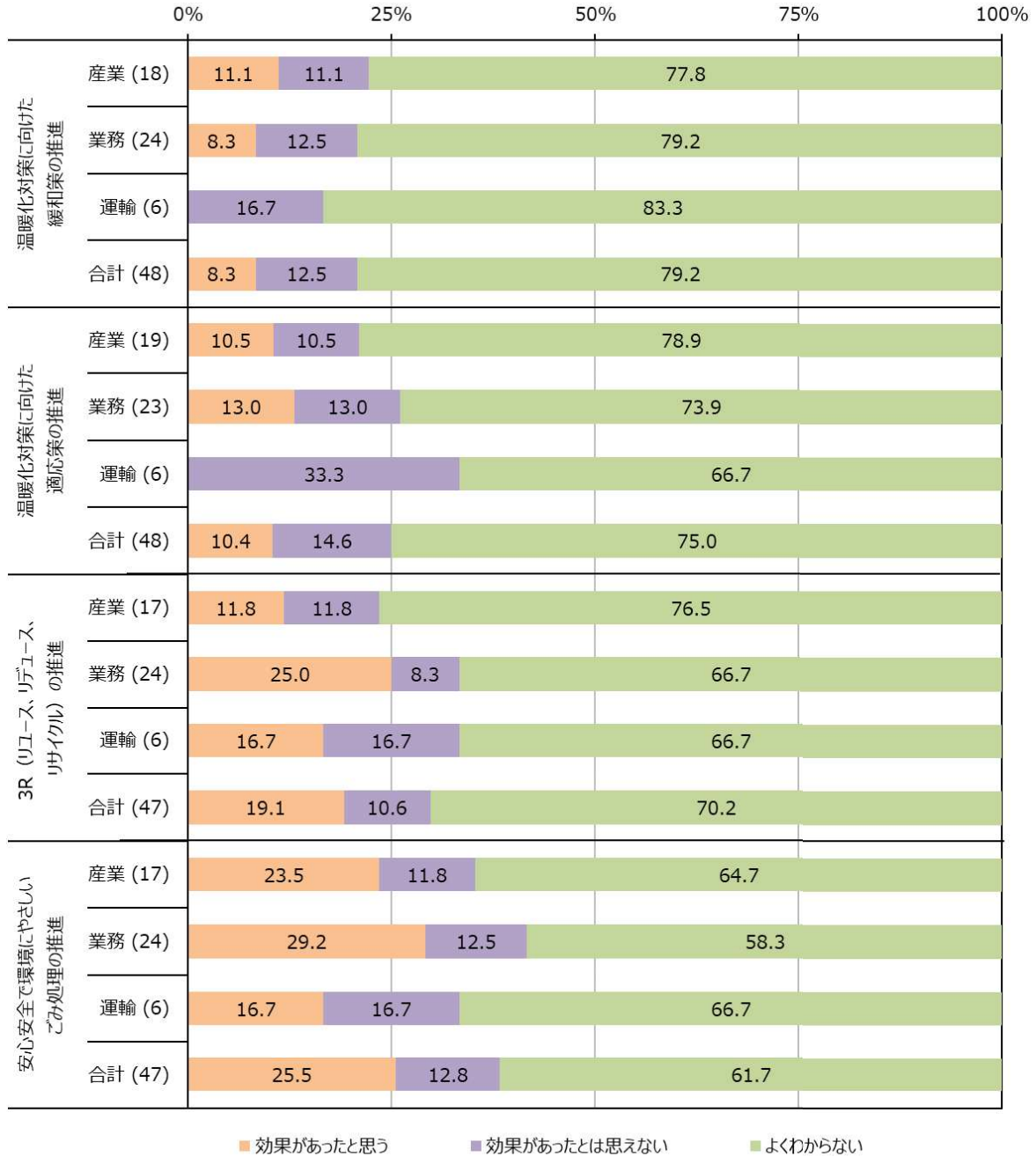
快適環境では、「快適でくつろげる空間の確保」で業務部門の「効果があったと思う」と回答した事業者の割合が低い。運輸部門では、「ごみの不法投棄の防止」、「環境美化活動の推進」を除くすべての施策で「効果があったと思う」と回答した事業者がいない。



()内数値：有効回答者数

図 3-4-59 問 18 のクロス集計結果 (部門別,快適環境)

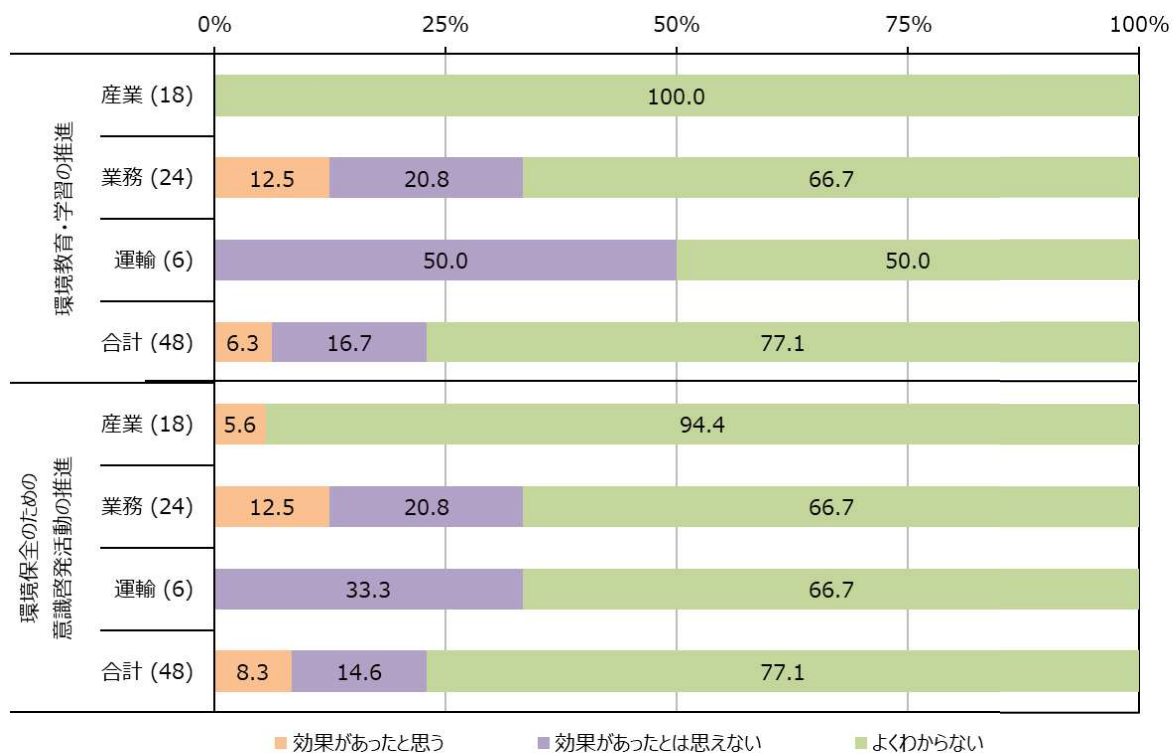
地球環境では、温暖化対策に向けた緩和策の推進、適応策の推進において、運輸部門では「効果があったと思う」と回答した事業者がいない。



()内数値：有効回答者数

図 3-4-60 問 18 のクロス集計結果 (部門別,地球環境)

人づくりでは、産業部門で「効果があったと思う」と回答した事業者の割合が低く、ほとんどが「よくわからない」と回答している。運輸部門では、「効果があったと思う」と回答した事業者がいない。



()内数値：有効回答者数

図 3-4-61 問 18 のクロス集計結果 (部門別,人づくり)

問 19 重点的に取り組むべき環境基本計画の施策【複数回答（3 つまで）】

＜単純集計＞

「計画的なまちづくりの推進」が最も多く、次いで「ごみの不法投棄の防止」、「生活とともに育まれた水路の保全と創造」となった。市民と同様に上位には快適環境や水環境に関する施策が多いが、「温暖化に向けた緩和策の推進」や「安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進」といった事業継続に関わる地球環境に関心が高い。一方で、緩和策や大気環境の保全、人づくりに関する施策について下位となっており、これらの分野に関する施策の周知や事業者の関心の向上が課題となる。

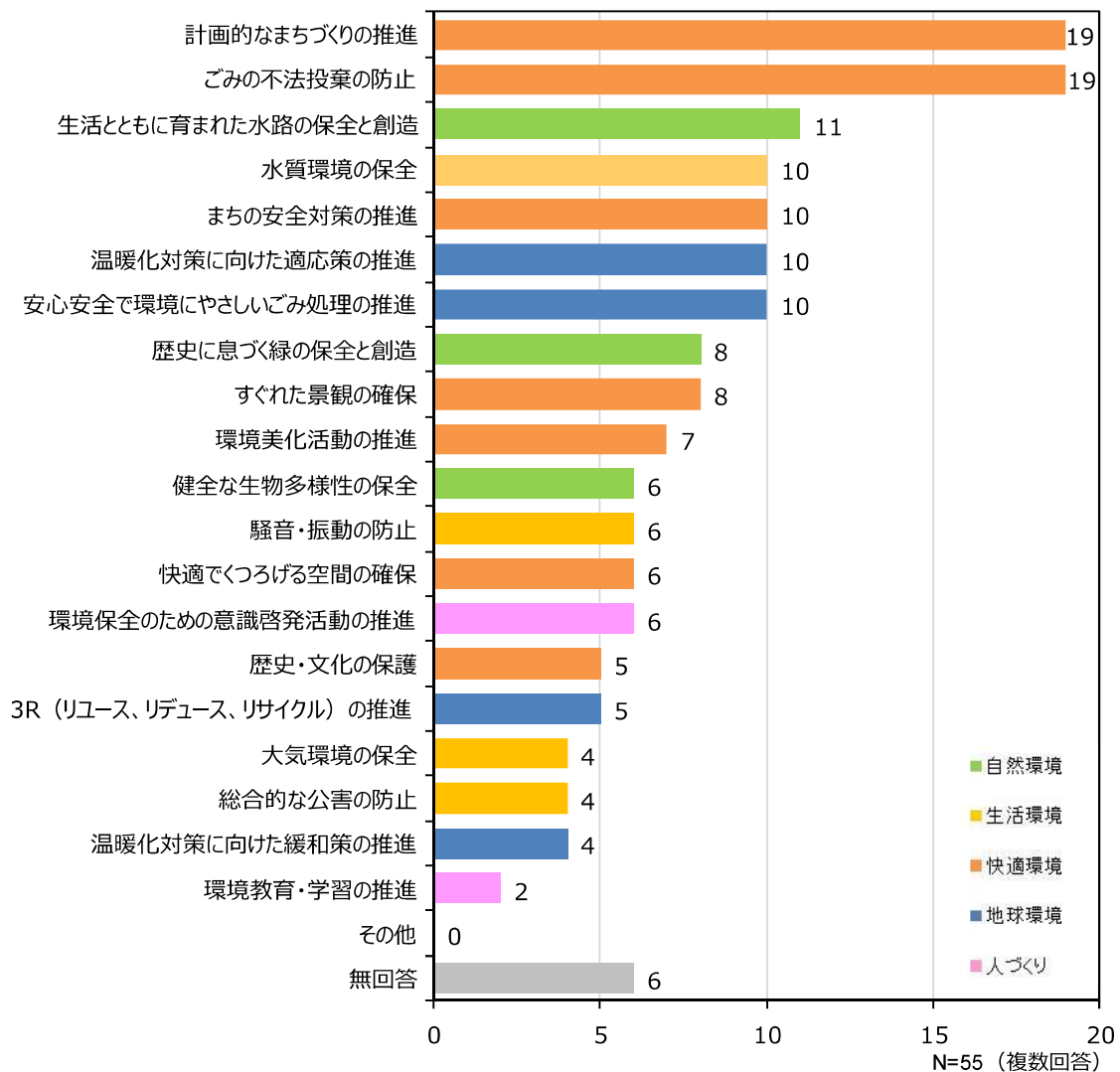
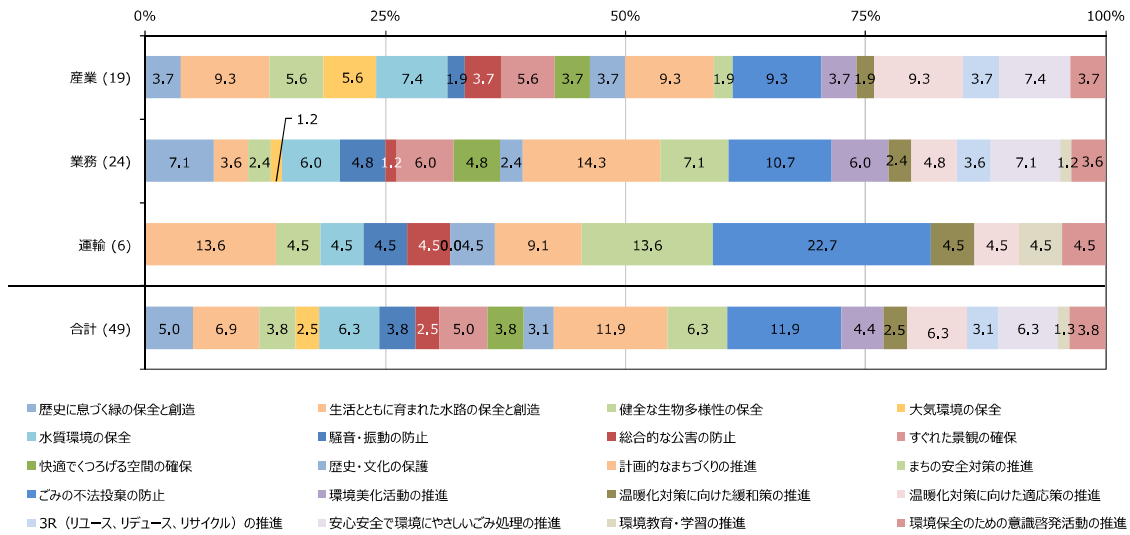


図 3-4-62 問 19 の単純集計結果

<クロス集計>

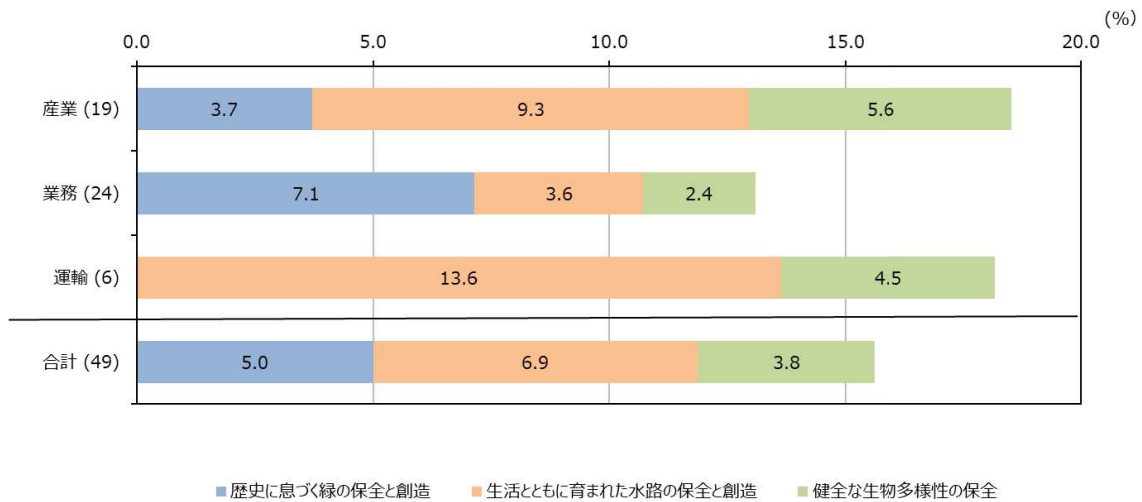
■部門別クロス集計

部門別では、自然環境に着目すると、運輸部門では、「歴史に息づく緑の保全と創造」と回答した事業者がない。



()内数値：有効回答者数（複数回答）

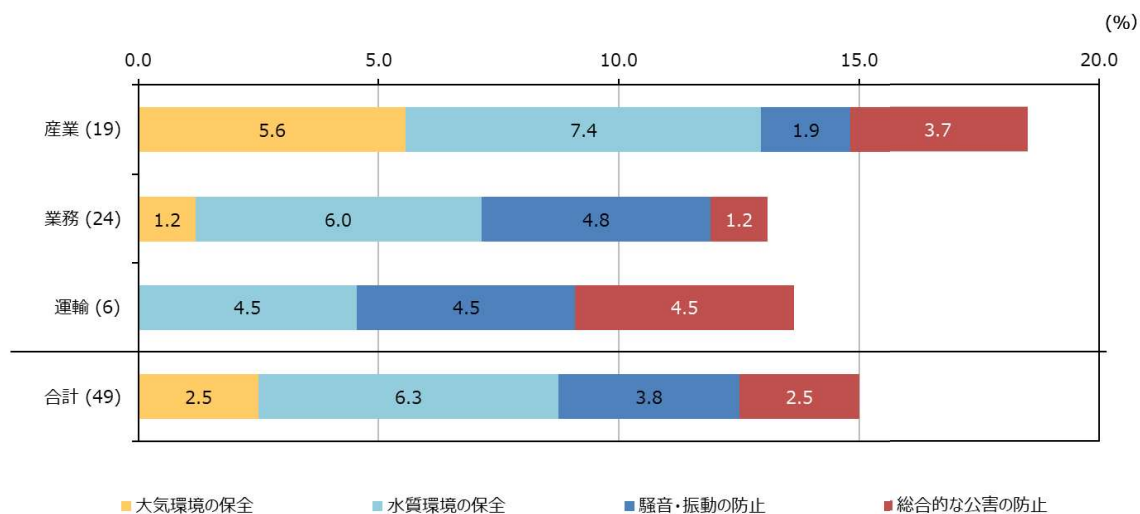
図 3-4-63 問 19 のクロス集計結果（部門別）



()内数値：有効回答者数（複数回答）

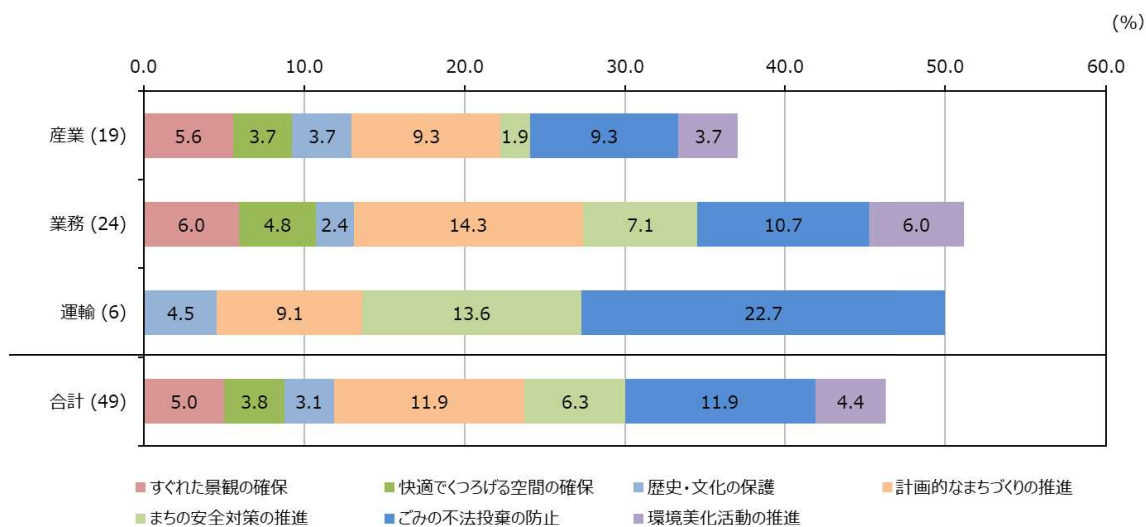
図 3-4-64 問 19 のクロス集計結果（部門別,自然環境）

生活環境に着目すると、大気環境の保全で産業部門の回答率が高い。快適環境に着目すると、運輸部門では、ごみの不法投棄の防止と回答した事業者の割合が高い。



()内数値：有効回答者数（複数回答）

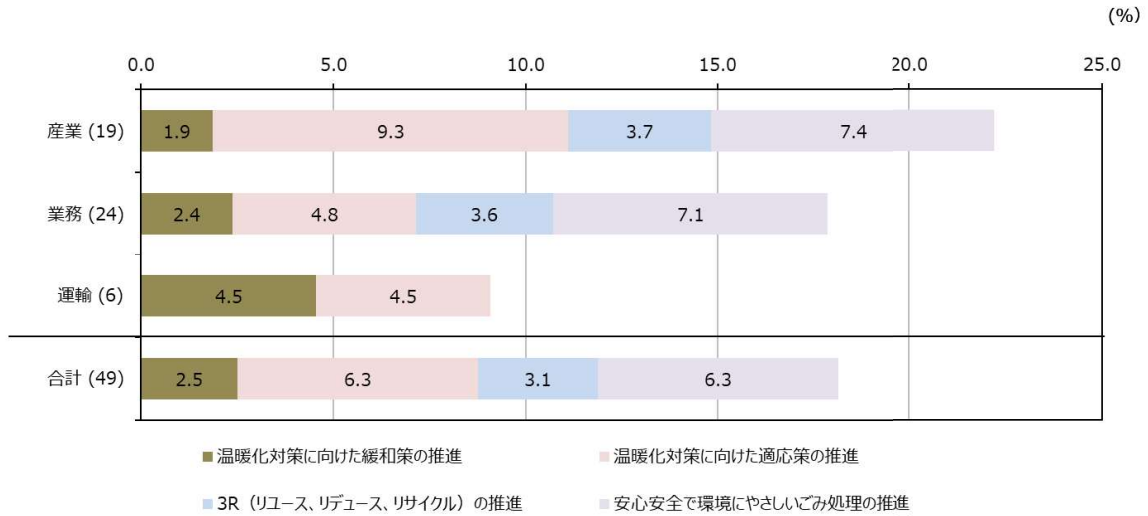
図 3-4-65 問 19 のクロス集計結果（部門別,生活環境）



()内数値：有効回答者数（複数回答）

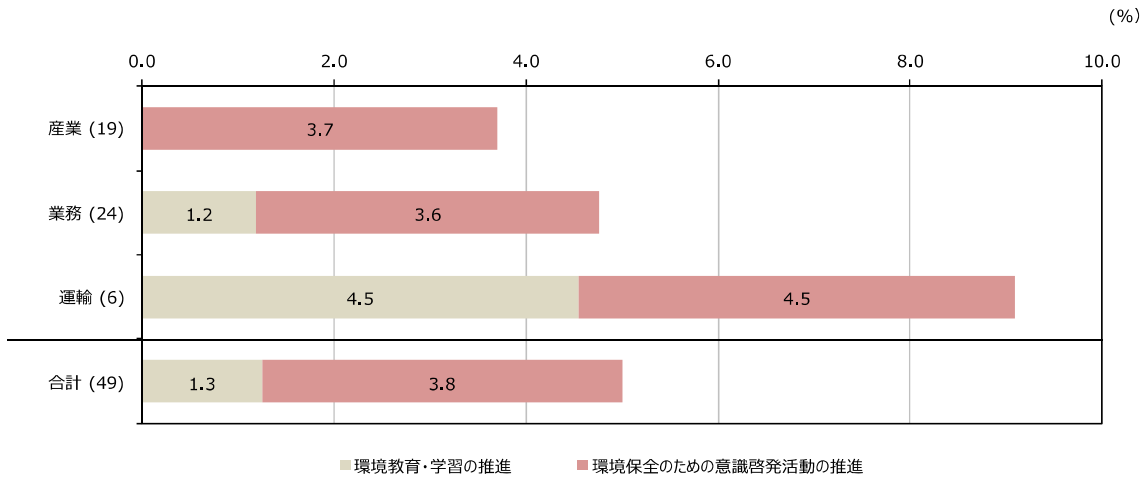
図 3-4-66 問 19 のクロス集計結果（部門別,快適環境）

地球環境に着目すると、適応策の推進については、産業部門で回答率が高い。また、人づくりに着目すると、産業部門では環境教育・学習の推進と回答した事業者はいない。



()内数値：有効回答者数（複数回答）

図 3-4-67 問 19 のクロス集計結果（部門別,地球環境）



()内数値：有効回答者数（複数回答）

図 3-4-68 問 19 のクロス集計結果（部門別,人づくり）

■環境基本計画の取組の効果（問 18）とのクロス集計

市民アンケートと同様に、環境基本計画のそれぞれの施策について、重要度と満足度の分布から、今後重点的に改善すべき施策やそのまま維持していくべき施策を分析するため、問 19 におけるそれぞれの施策の得票数を「重要度」、問 18 においてそれぞれの施策について「効果があったと思う」と回答した割合を「満足度」とし、それぞれの平均値を赤破線で示した。

下図より、おおむね市民アンケートと同様の傾向が得られたが、大気環境の保全、快適でくつろげる空間の確保については市民よりも満足度と重要度が下がり、適応策の推進、ごみ処理の推進については重要度が高い。

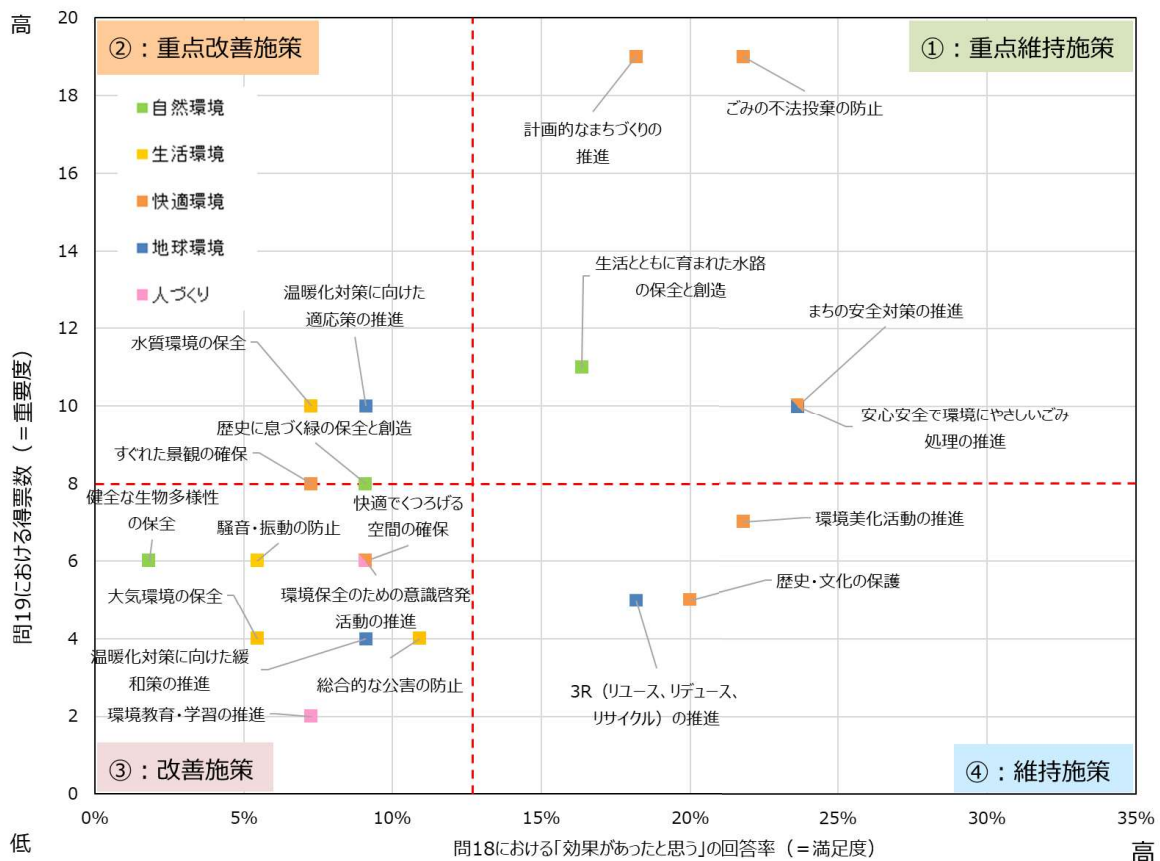


図 3-4-69 施策の満足度（問 18）と施策の重要度（問 19）のクロス集計結果

(6) 地球温暖化対策について

問 20 省エネ機器や設備の導入状況【複数回答】

<単純集計>

「LED 照明や Hf 型照明などの高効率照明」は 69.1%、「空調・O A 機器などの省エネ型業務用機器」は 30.9%の事業者が設置している。また、「高性能ボイラーなどの高効率機器」や「コージェネレーション（熱電併給システム）」といったエネルギー消費量の多い業種業態向けの設備も少ないながらも導入されている。

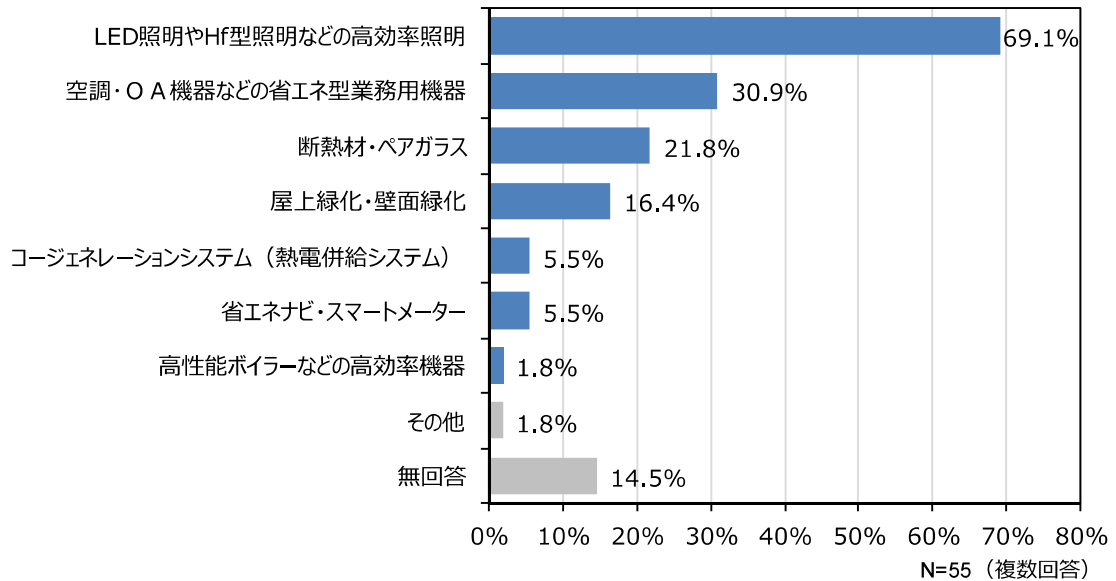
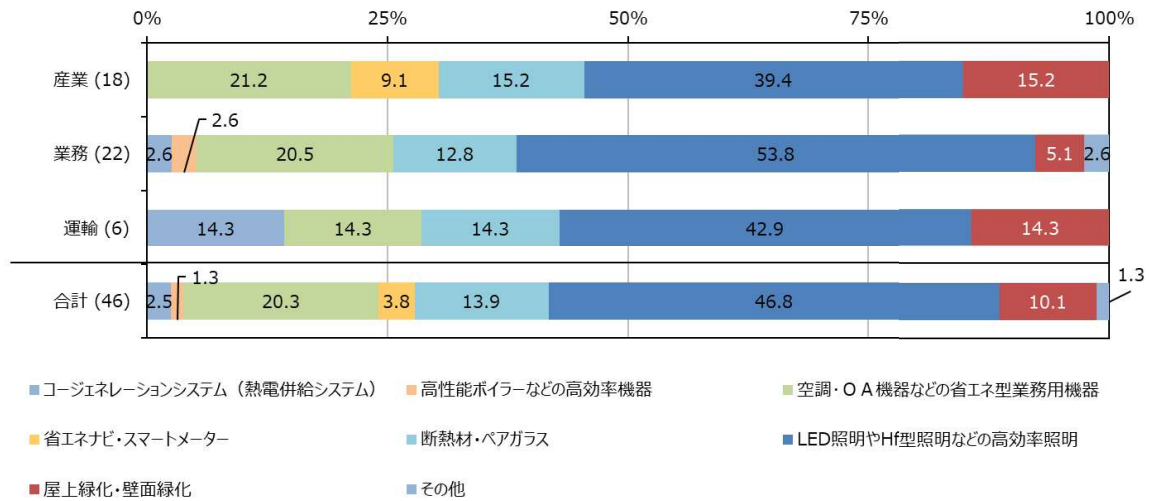


図 3-4-70 問 20 の単純集計結果

<クロス集計>

■部門別クロス集計

部門別では、「高性能ボイラーなどの高効率機器」や「コージェネレーション（熱電併給システム）」といったエネルギー消費量の多い業種業態向けの設備は業務部門、運輸部門で導入されている。「省エネナビ・スマートメーター」は産業部門のみ設置している。



()内数値：有効回答者数（複数回答）

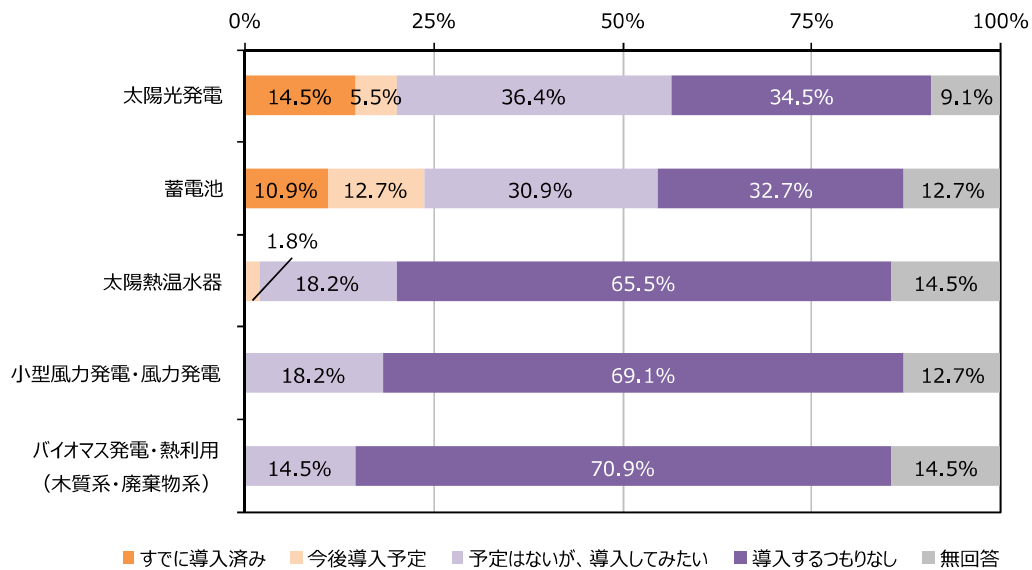
図 3-4-71 問 20 のクロス集計結果（部門別）

問 21 再エネ設備の導入状況【単独回答】

<単純集計>

14.5%の事業者が太陽光発電を、10.9%の事業者が蓄電池を導入しているが、その他の設備の導入率は0%となっている。太陽光発電、蓄電池は30.9%の事業者が導入検討の意思を示しており、この層に補助制度などの周知を行うことが課題となる。

小型風力発電、バイオマス発電・熱利用については、初期投資額や燃料の調達が難しく、導入を計画している事業者は少ないが、15%程度の事業者が興味を示している。



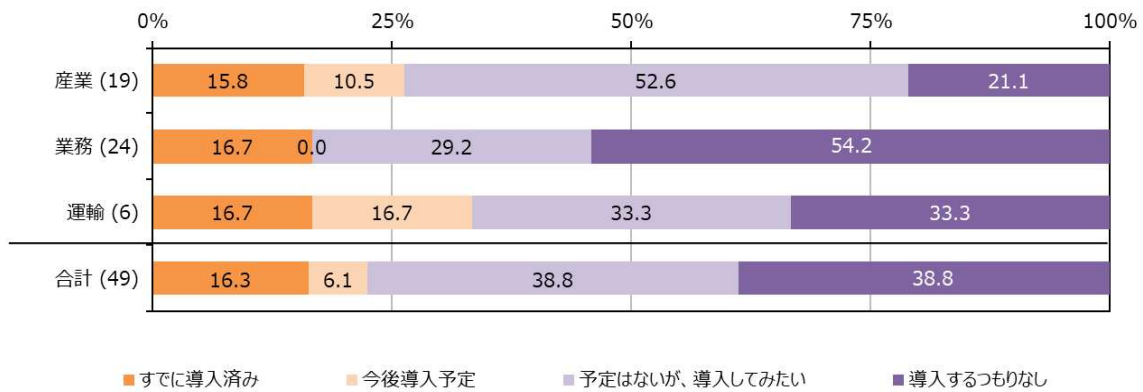
N = 55

図 3-4-72 問 21 の単純集計結果

<クロス集計>

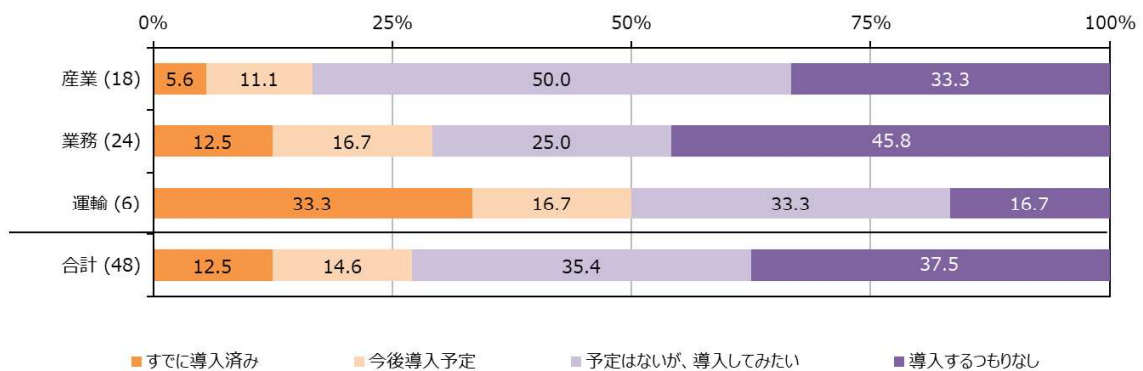
■部門別クロス集計

部門別では、蓄電池以外は大きな差異は見られなかったが、蓄電池では、業務部門、運輸部門で「すでに導入済み」と回答した事業者の割合が高い。



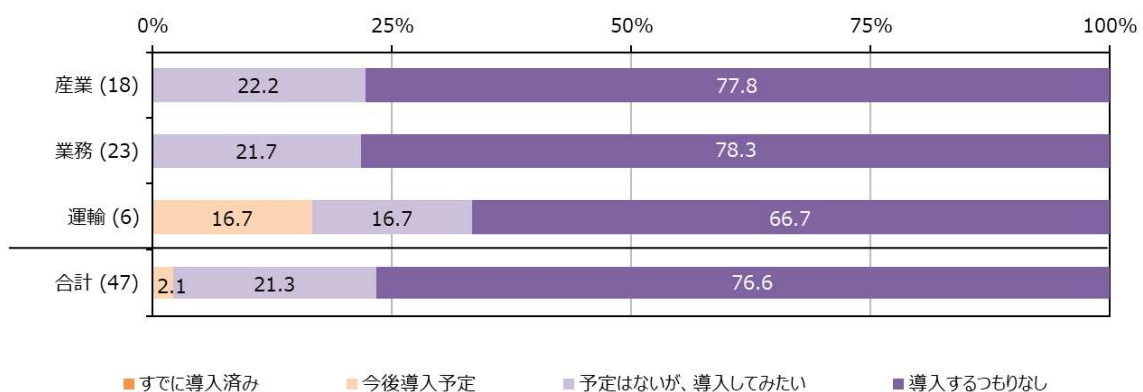
()内数値：有効回答者数

図 3-4-73 問 21 (太陽光発電) のクロス集計結果 (部門別)



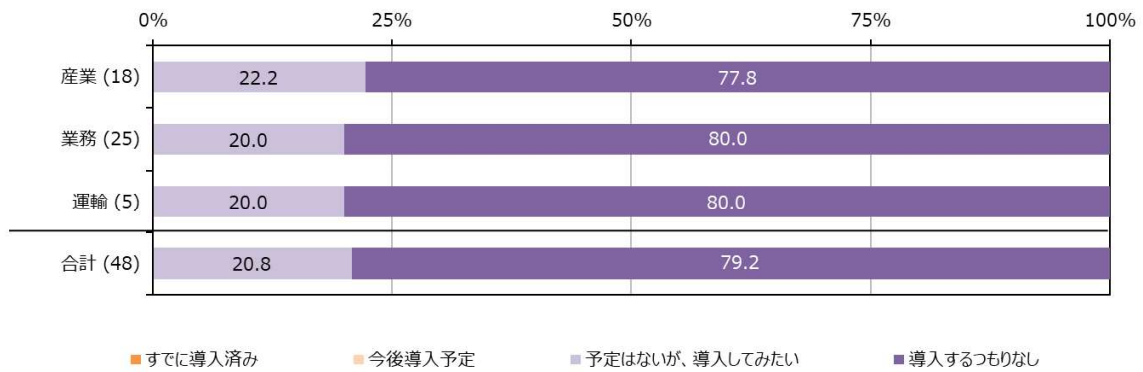
()内数値：有効回答者数

図 3-4-74 問 21 (蓄電池) のクロス集計結果 (部門別)



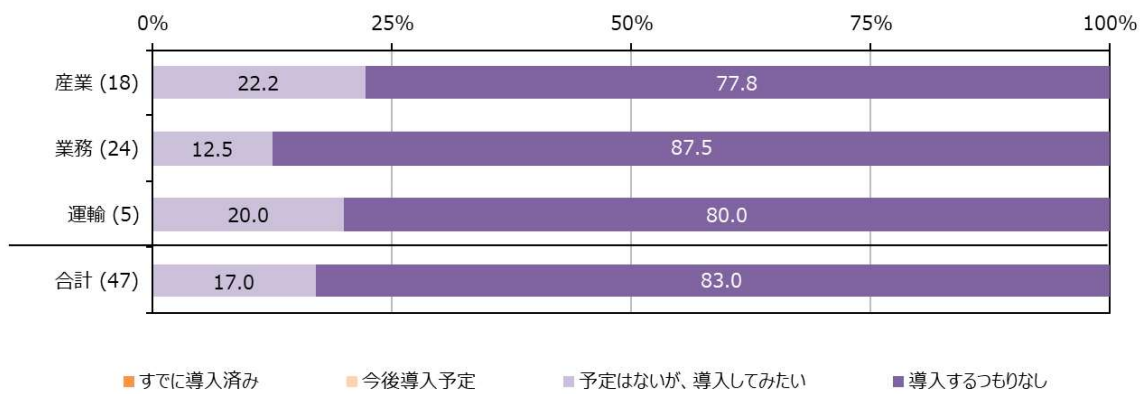
()内数値：有効回答者数

図 3-4-75 問 21 (太陽熱温水器) のクロス集計結果 (部門別)



()内数値：有効回答者数

図 3-4-76 問 21（小型風力発電・風力発電）のクロス集計結果（部門別）



()内数値：有効回答者数

図 3-4-77 問 21（バイオマス発電・熱利用）のクロス集計結果（部門別）

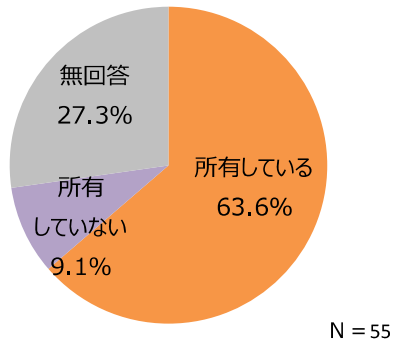
問 22 次世代自動車（ハイブリッド車、PHV・EV、FCV）への買い替えの意向

I. 所有状況

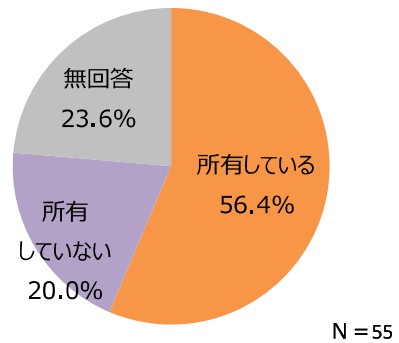
<単純集計>

ガソリン・ディーゼル車、ハイブリッド車の所有率は比較的高いが、産業用次世代自動車の普及の遅れもあり、電気自動車、燃料電池自動車といった次世代自動車の所有率は非常に低い。

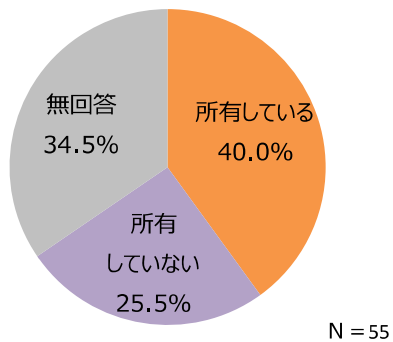
【ガソリン・ディーゼル車（普通）】



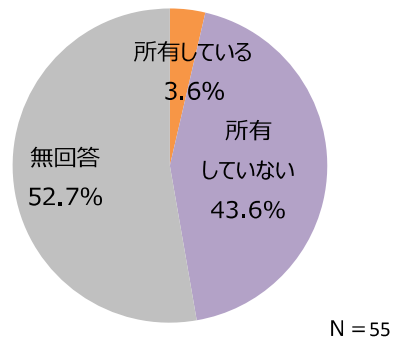
【ガソリン・ディーゼル車（軽）】



【ハイブリッド車】



【PHV・EV（電気自動車）】



【燃料電池自動車】

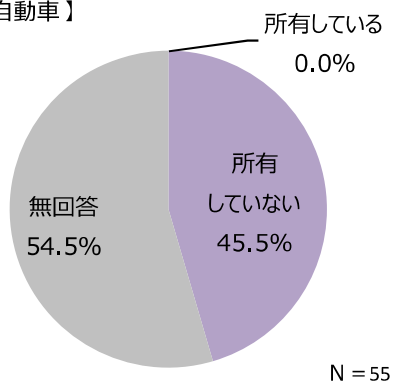
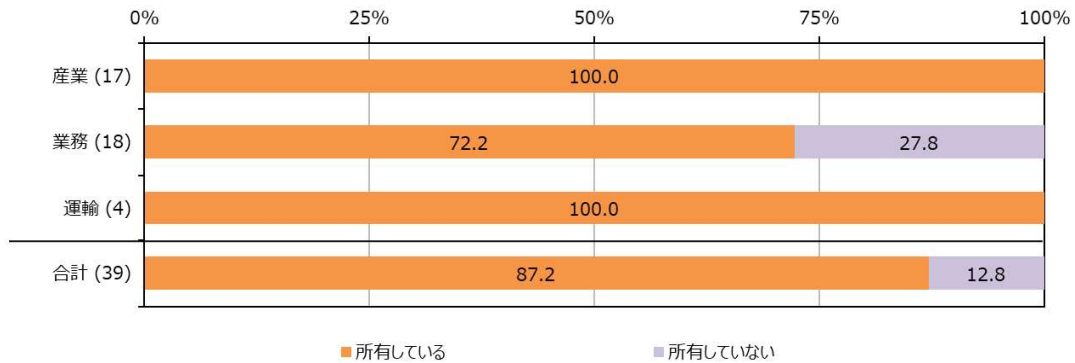


図 3-4-78 問 22-I の単純集計結果

<クロス集計>

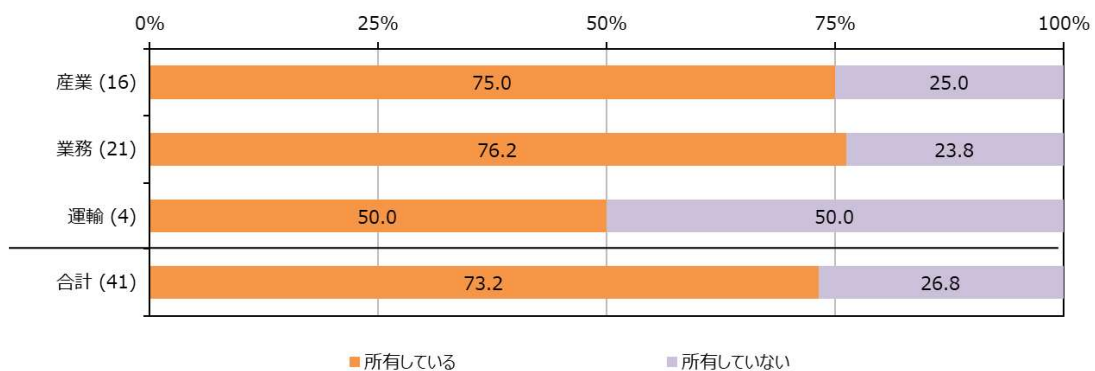
■部門別クロス集計

部門別では、大きな差異は見られなかったが、業務部門では電気自動車を所有していると回答した事業者はいない。



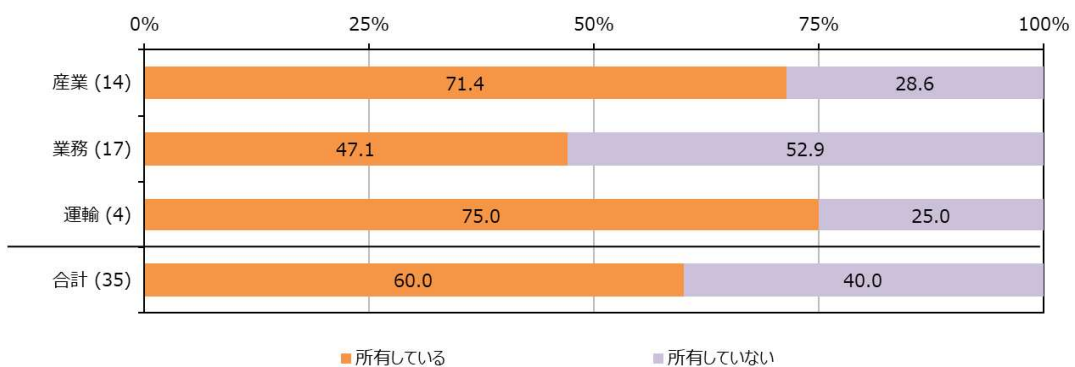
()内数値：有効回答者数

図 3-4-79 問 22-I (ガソリン車(普通)) のクロス集計結果 (部門別)



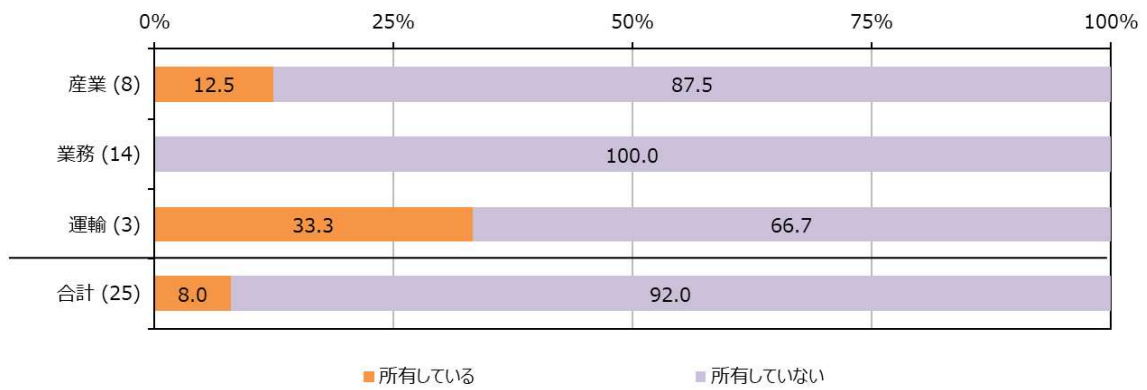
()内数値：有効回答者数

図 3-4-80 問 22-I (ガソリン車(軽)) のクロス集計結果 (部門別)



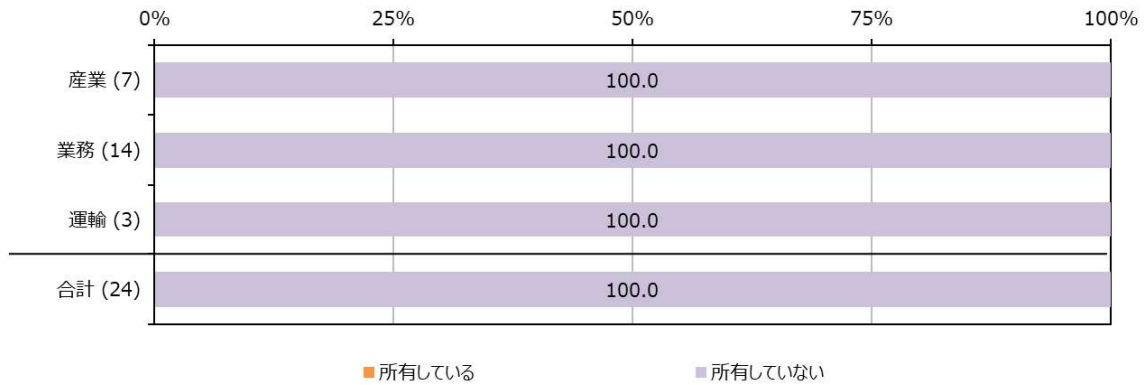
()内数値：有効回答者数

図 3-4-81 問 22-I (ハイブリッド車) のクロス集計結果 (部門別)



()内数値：有効回答者数

図 3-4-82 問 22-I (電気自動車) のクロス集計結果 (部門別)



()内数値：有効回答者数

図 3-4-83 問 22-I (燃料電池自動車) のクロス集計結果 (部門別)

II. 現在の保有台数と将来の予定台数【複数回答】

<単純集計>

現在の保有台数では80%以上がガソリン・ディーゼル車であるのに対し、将来の保有台数ではハイブリッド車、電気自動車、燃料電池自動車の割合が増加しており、これらの次世代自動車の買い替えが進むと推測される。

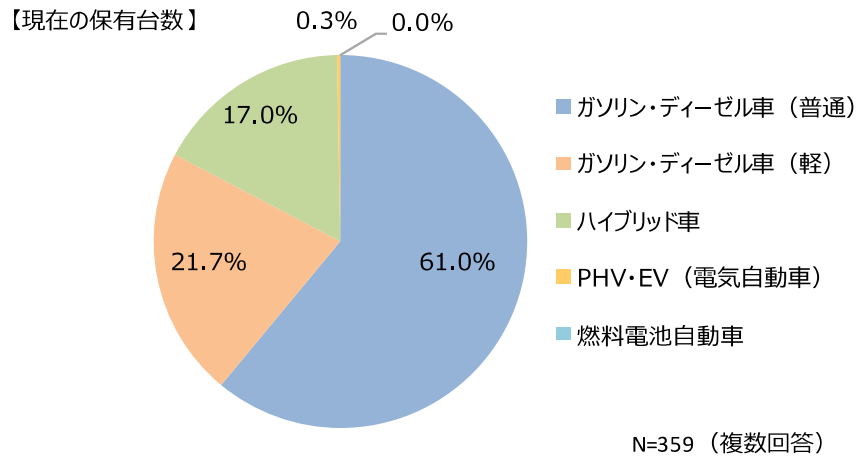


図 3-4-84 問 22-II の単純集計結果（現在の保有台数）

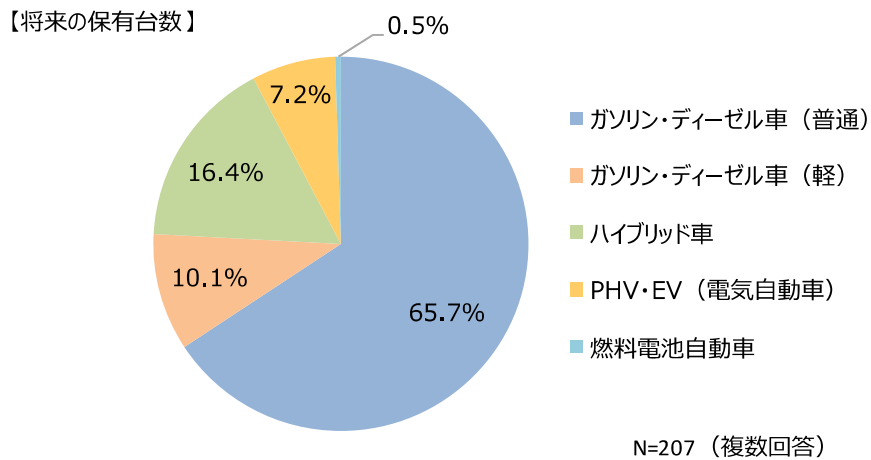


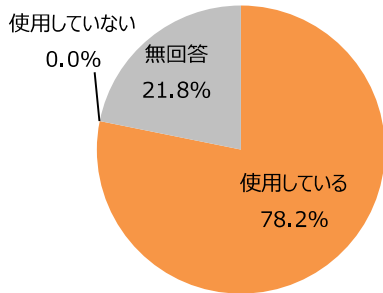
図 3-4-85 問 22-II の単純集計結果（将来の保有台数）

問 23 事業所の電気やガス等のエネルギー使用状況【単独回答】

<単純集計>

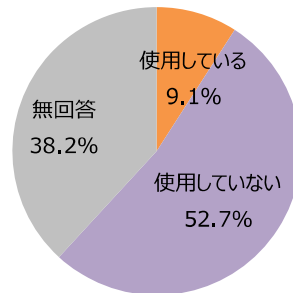
電気、ガソリンの使用率が高く、ガスについては市の一部が都市ガスの供給エリアとなっているため、都市ガスの利用者とプロパンガスの利用者が混在している。また、灯油の利用者も30%近く存在している。

【電気】



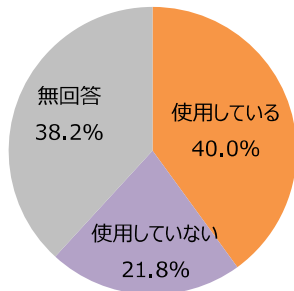
N = 55

【都市ガス】



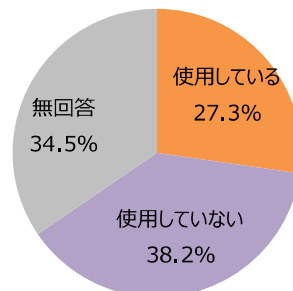
N = 55

【プロパンガス】



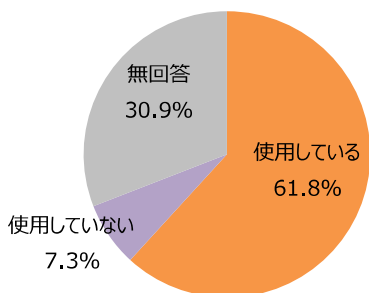
N = 55

【灯油】



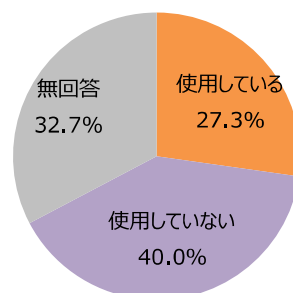
N = 55

【ガソリン】



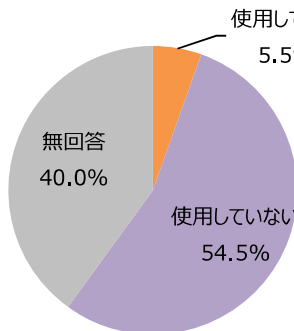
N = 55

【軽油】



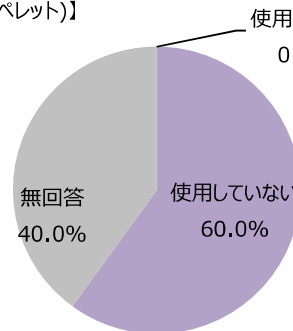
N = 55

【重油】



N = 55

【木材(薪・ペレット)】



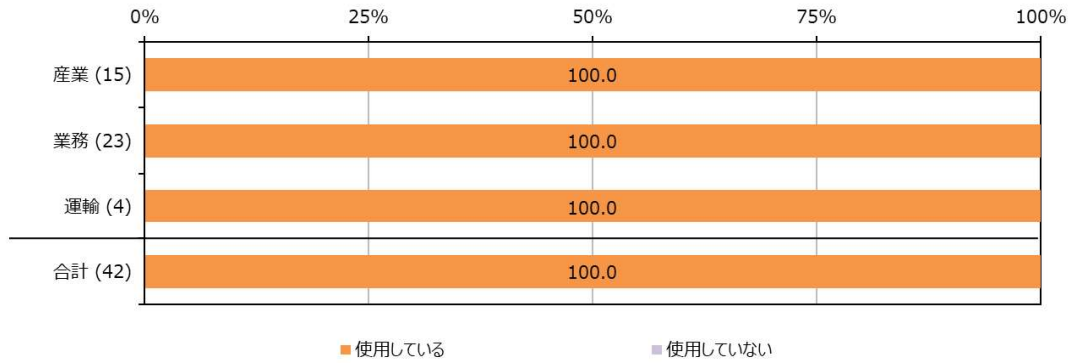
N = 55

図 3-4-86 問 23 の単純集計結果

<クロス集計>

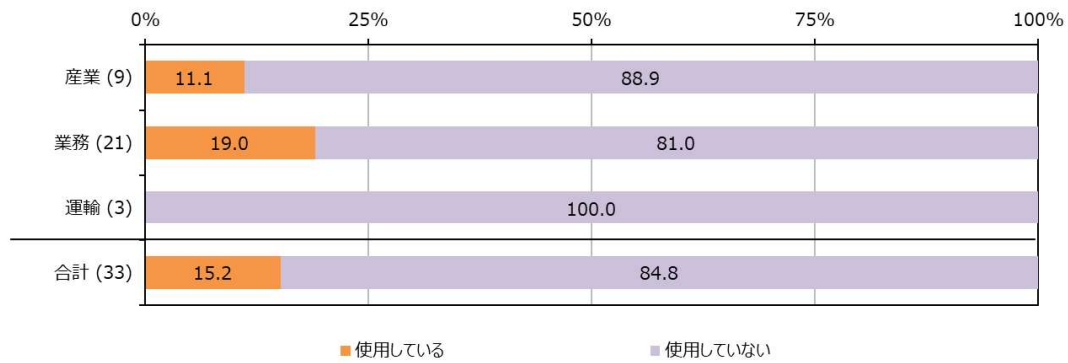
■部門別クロス集計

部門別では、灯油、軽油、重油については、産業部門、運輸部門で使用していると回答した事業者の割合が高い。



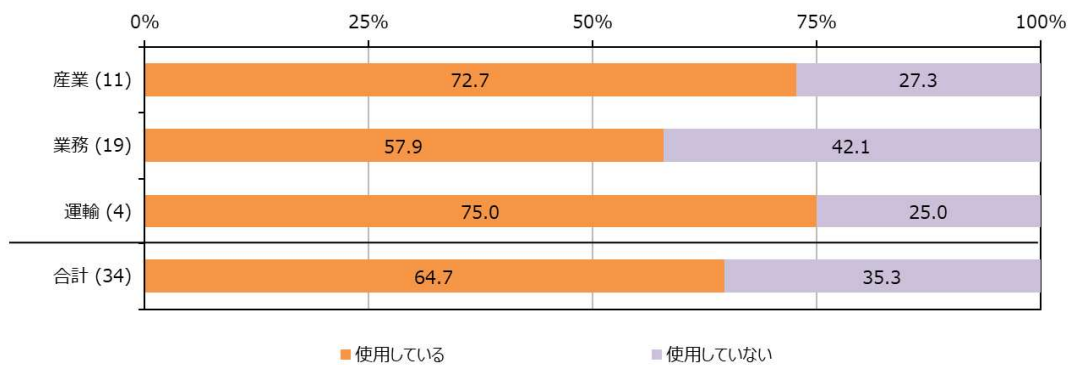
()内数値：有効回答者数

図 3-4-87 問 23 (電気) のクロス集計結果 (部門別)



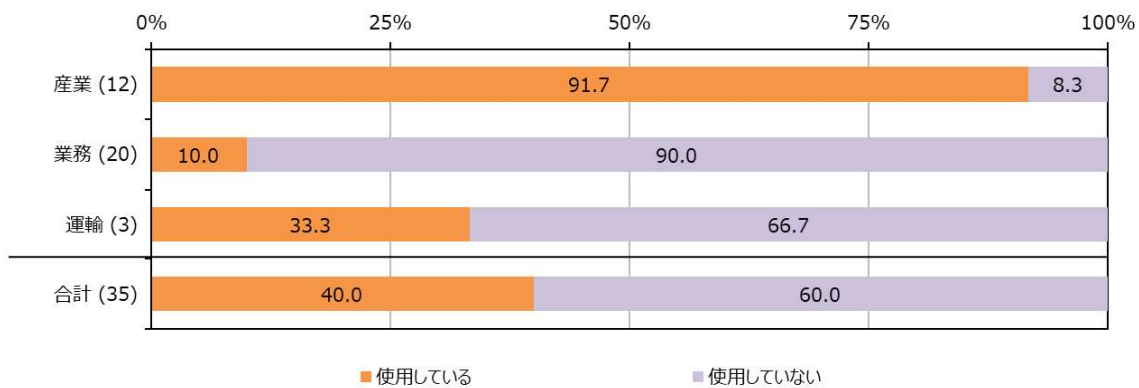
()内数値：有効回答者数

図 3-4-88 問 23 (都市ガス) のクロス集計結果 (部門別)



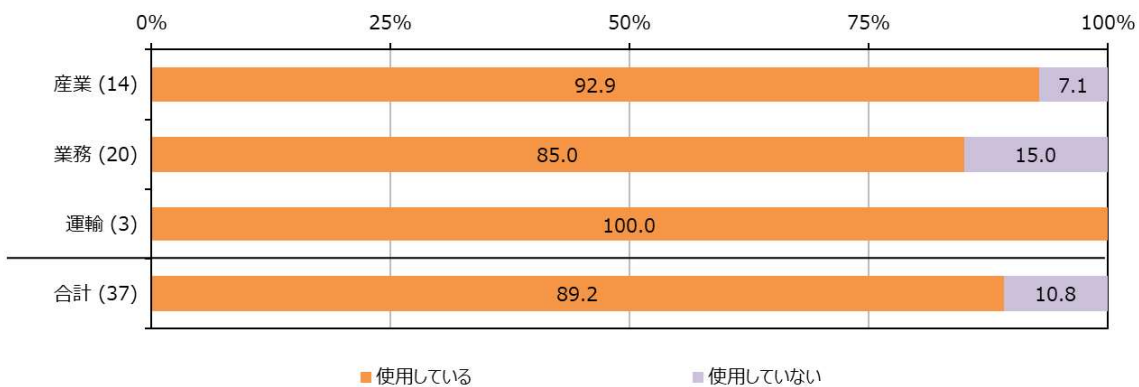
()内数値：有効回答者数

図 3-4-89 問 23 (プロパンガス) のクロス集計結果 (部門別)



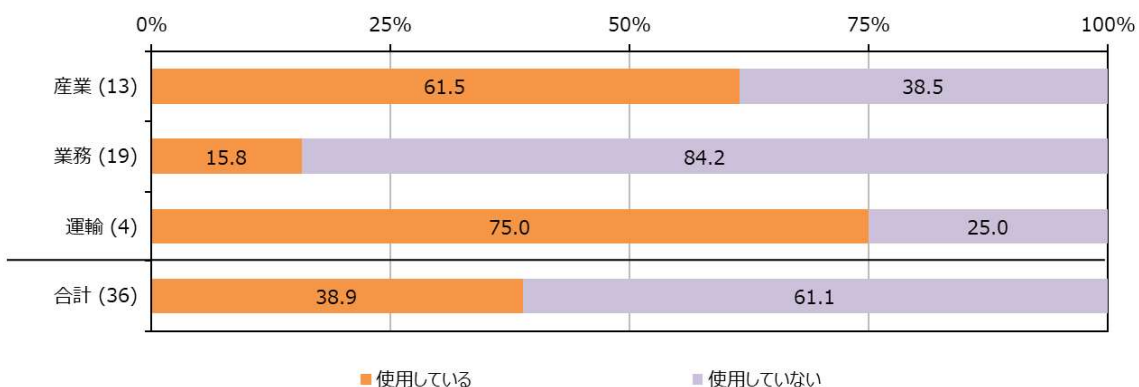
()内数値：有効回答者数

図 3-4-90 問 23 (灯油) のクロス集計結果 (部門別)



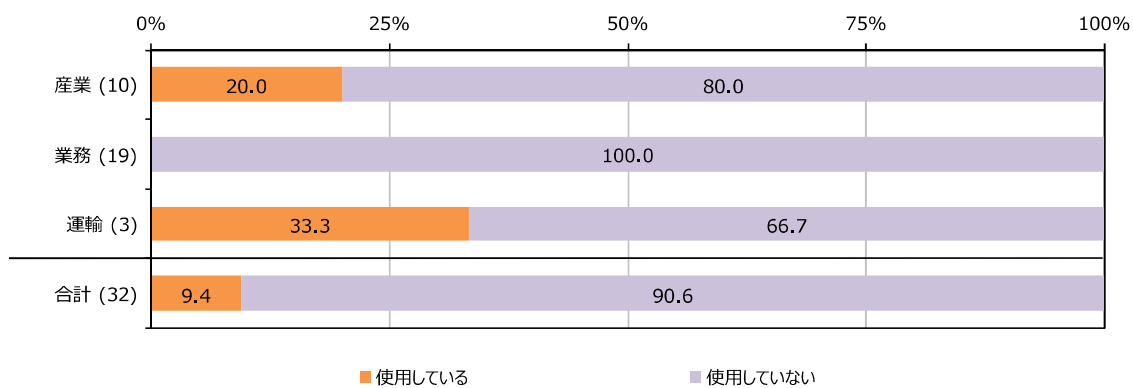
()内数値：有効回答者数

図 3-4-91 問 23 (ガソリン) のクロス集計結果 (部門別)



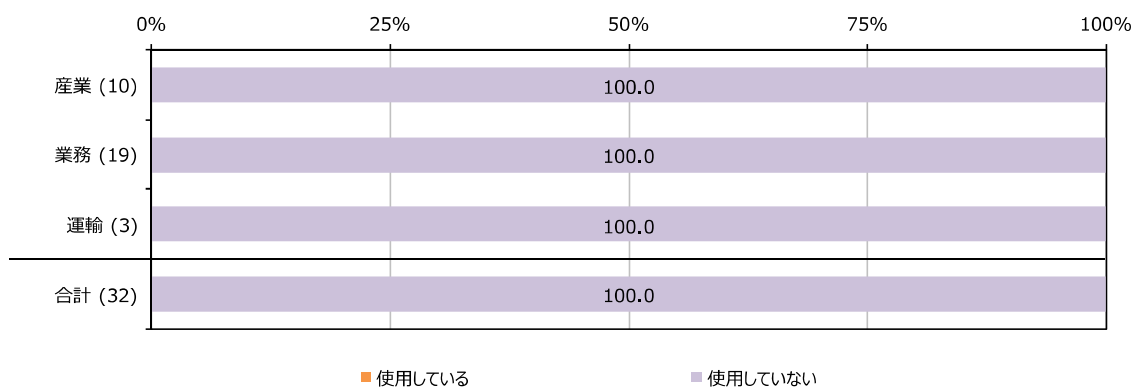
()内数値：有効回答者数

図 3-4-92 問 23 (軽油) のクロス集計結果 (部門別)



()内数値：有効回答者数

図 3-4-93 問 23 (重油) のクロス集計結果 (部門別)



()内数値：有効回答者数

図 3-4-94 問 23 (木材) のクロス集計結果 (部門別)

(7) 自由記述

誤字脱字については一部修正済

1 自然環境	特になし
2 生活環境	隣市に買い物へ行かなければならないため大型商業施設を作してほしい。仕事場も増え、近くにあればガソリン代もかからずエコに繋がる。歩いて行ければ健康にも繋がる（他県から知り合いを呼ぶのに何もなくて恥ずかしい）
3 快適環境	白岡駅西口周辺の緑化推進をしてほしい。そのために道路整備を進め街路樹を植えること及び駅周辺に公園を整備してほしい。東口駅周辺には緑はあるが、もっと大きな樹を植えて日陰を作ってもらいたい
4 地球環境 ・脱炭素	特になし
5 人づくり (普及啓発等)	特になし
6 環境づくり	柴山沼の周りにあやめ、あじさい等の季節の花木を植えたら良いと思う。
7 補助金	・エコ化するのであれば補助金は不可欠 ・ゴミ処理代が高くなった
	この地域をより良くしていくことには賛同する。何か協力できることがあれば極力参加もするが、何をするも資金が発生し、何か導入するには資金が必要になるため、補助金等があればより積極的になれる。
	白岡市に本店がなくても補助金が受けられると良い。
8 市の環境行政	特になし
アンケートについて	アンケートについて、難しくよく分からない。